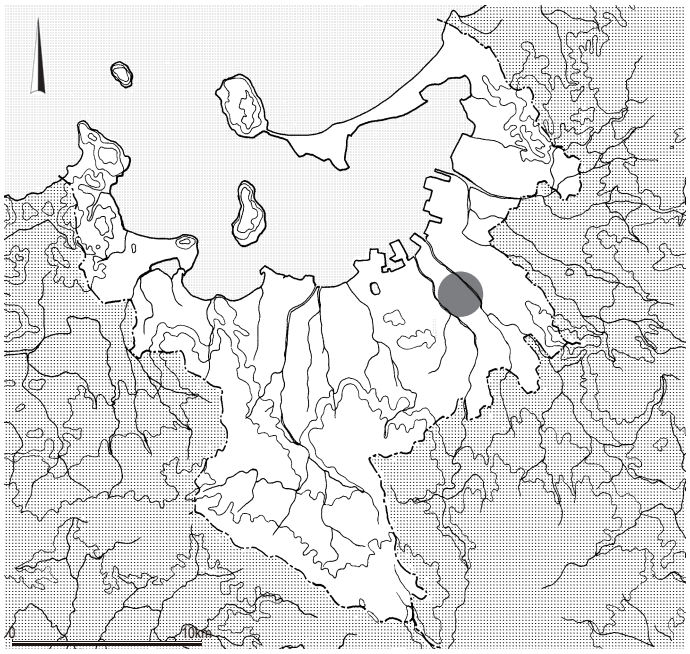
福岡市埋蔵文化財調査報告書第1297 集

比　恵　75

― 比恵遺跡群第135 次調査報告 ―



調査番号　1426
遺跡略号　HIE-135

２０１６

福岡市教育委員会

序

福岡市の中央に広がる福岡平野は、歴史的にみても重要な位置にある地域です。

福岡市では、工事等により現状での保存が不可能となった埋蔵文化財について、記録による保存を図ることとし、そのための発掘調査を行ってきました。本書は、この目的で博多区博多駅南三丁目地内において実施した比恵遺跡群第 135 次調査の報告書として刊行するものです。

本報告の刊行は、関係各位の埋蔵文化財についての深い御理解と御協力の結果であるとをここに記し、心よりお礼申し上げます。また、本書が福岡平野の歴史について理解を深めるための資料として資するところがあれば幸いです。

平成28 年3 月25 日

福岡市教育委員会
教育長　酒 井 龍 彦

はじめに

1　本書は、2014（平成 26) 年度、福岡市博多区博多駅南三丁目地内において福岡市教育委員会がおこなった、比恵（ひえ）遺跡群第 135 次調査の報告である。

2　発掘調査は、福岡市教育委員会が文化財保護法第 93 条に基づく届け出を受け、埋蔵文化財保存についての協議を行った結果、事業者の依頼により、記録保存を目的として、経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課が実施したものである。作業は、事業者である照栄建設株式会社を始めとした関係各位のご理解とご協力のもと、円滑に遂行することができた。この場で深く感謝申し上げる。

3　発掘調査及び報告は、埋蔵文化財調査課 杉山富雄が担当した。

4　出土資料および調査記録は、福岡市埋蔵文化財センターで収蔵管理し、利用に供する予定である。

凡例

1　位置の記録は、国土座標 (世界測地系) に依った。

2　図中に用いる方位は国土座標の座標北である。

3　報告中の遺構・遺物番号は、それぞれ登録番号を用い、調査現場での記録から整理、収蔵まで一貫して管理し、台帳・実測図・日誌等調査記録に記載した情報と極力関連づけておくことに努めた。記述中必要に応じて、遺構には「M」、遺物には「R」を付した登録番号を用いた。

遺跡調査番号	１ ４ ２ ６			調 査 略 号	ＨＩＥ - 135
調 査 地 籍	福岡市博多区博多駅南三丁目 49 番			分布地図番号	３７
事業地面積	749 ㎡	調査対象面積	419 ㎡	調 査 面 積	404 ㎡
調 査 期 間	2014(平成 26) 年 10 月 14 日 ～ 2014(平成 26) 年 11 月 28 日				

本文目次

前文
1 比恵135 次調査の概要 ・・・

1 比恵 135 次調査の概要

(1) 発掘調査の経緯

埋蔵文化財事前審査　2014(平 成 26) 年 7 月 30 日付で照栄建設株式会社から福岡市教育委員会あて、福岡市博多区博多駅南三丁目 49 番地内における共同住宅建築に伴い、埋蔵文化財の有無について照会があった。当該地は比恵遺跡群内に所在することから、文化財部埋蔵文化財審査課は、現状建物の解体に際し基礎抜き取り時の立会および確認調査を実施した。その結果、工事予定箇所に埋蔵文化財が遺存することを確認した。これを受けて、設計変更等による埋蔵文化財の現状保存の可能性を検討した。しかし、計画建物基礎が埋蔵文化財への影響を避けることができない構造のものであったことから、事業者の理解と協力を得て、記録保存のための本発掘調査を実施することとなった。

図 1 比恵 135 次地点位置図 (1：50,000)

発掘調査　発掘調査は、事業者の委託を受け、比恵遺跡群第 135 次調査 (以下、比恵 135 次調査とする) として、埋蔵文化財調査課が担当し、2014(平成 26) 年 10 月 14 日着手した。発掘調査は、建築建物による影響を受ける範囲を対象とし、対象区域を 3 区画に分割して廃土置き場を確保しながら調査を進め、11 月 28 日現場作業を完了した。調査面積は 404㎡。遺物は、土器類・石器類・木器類合わせてコンテナ 12 箱ほどが出土した。

(2) 比恵 135 次地点の立地と周辺の調査

遺跡の立地　比恵遺跡群は Aso4 火砕流が堆積する中位段丘上に立地する。現状は戦前に行われた区画整理により、北へごくわずか勾配をもった平坦地となっているが、旧状を示す地形図によれば、段丘は複雑に入り組んだ低地により、複雑な形状に分断された台地として残っていた。比恵 135 次地点は、遺跡のなかでも、北西に突出したような区域に位置する。現状は宅地となっているが、上記のとおり人工的な改変の結果である。それは本調査区の土層断面の観察から、区画整理時に存在していた水田面に行われた 0.5 m程の盛土であったと分かる。さらに調査の結果から、比恵遺跡の立地する中位段丘に入り込んだ谷の東岸に立地していたことが分かった。

既往の調査　図 2 に比恵 135 次地点を中心とした調査区を示す (図中、本地点のほか 130 次・131 次・133 次の各地点は本年度報告、図中には弥生時代から古墳時代までの遺構を表示する)。南西に隣接する 80 次、南の 32 次地点は埋没谷の谷底に位置し、更に南～西の 25 次、130 次、115 次地点は埋没谷の西岸に位置し、24 次地点が、埋没谷の谷頭部の所在を示す。135 次地点の南東に位置する 117 次地点は埋没谷東岸を示し、それの延長上に 135 次地点が位置する。また、北東側の 29 次地点は台地部の北縁を示すものと考えられており、これの延長線とこれまで述べた埋没谷の東岸の延長戦との交点が開口部を示すものと思われる。135 次地点は、その推定線上に位置することになる。埋没谷の東岸台地は遺構の遺存不良である。西岸は 4 次、26 次、85 次調査で確認された低地までの間が台地となっており、弥生時代の遺構が遺存する。中でも弥生時代前期から中期前半とする遺構が顕著である。また、135 次調査に関連して、上述埋没谷の西岸奥部では、谷部に大量の土器が散布しているほか、木器類も多数の出土をみている。

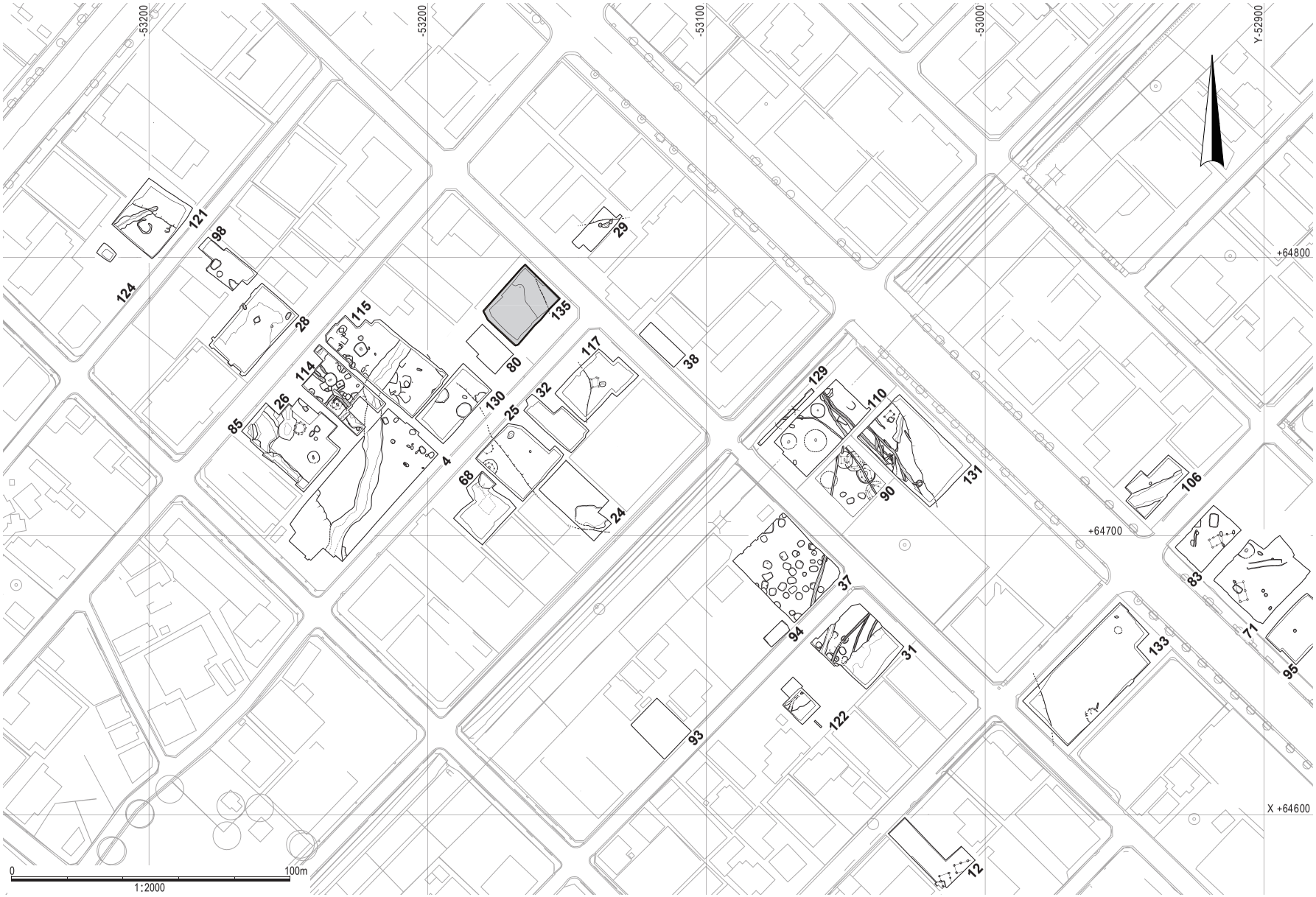


図 2 比 恵 135 次調査区位置図（1：2,000）
※遺構は弥生時代～古墳時代

2　比恵 135 次調査の記録

(1)　発掘調査

1)　調査の経過

調査対象は、用地の北 2/3 を占める予定建物の範囲とし、表土部を機力により鋤取り、以下を人力で掘り下げ、調査を行った。用地内に休憩場所、駐車場を確保する必要から、廃土を調査範囲内で処理することとし、まず西部分を 1 区として掘削、調査を行い、東側を廃土置き場とした。以下北東及び東辺部を 2 区、残りの南辺部を 3 区とし、残余部分を廃土置き場としてベルトコンベアーにより廃土を排出しながら調査を進めた (図 5)。

調査区内では、かなりの部分が建物解体時に掘削を受けていたことから、調査区の壁面養生のため掘削深度の大きい部分では調査区壁に勾配をもたせた。また、調査区内に建物基礎杭が残り、鉄筋等の処理をしながらの調査となった。

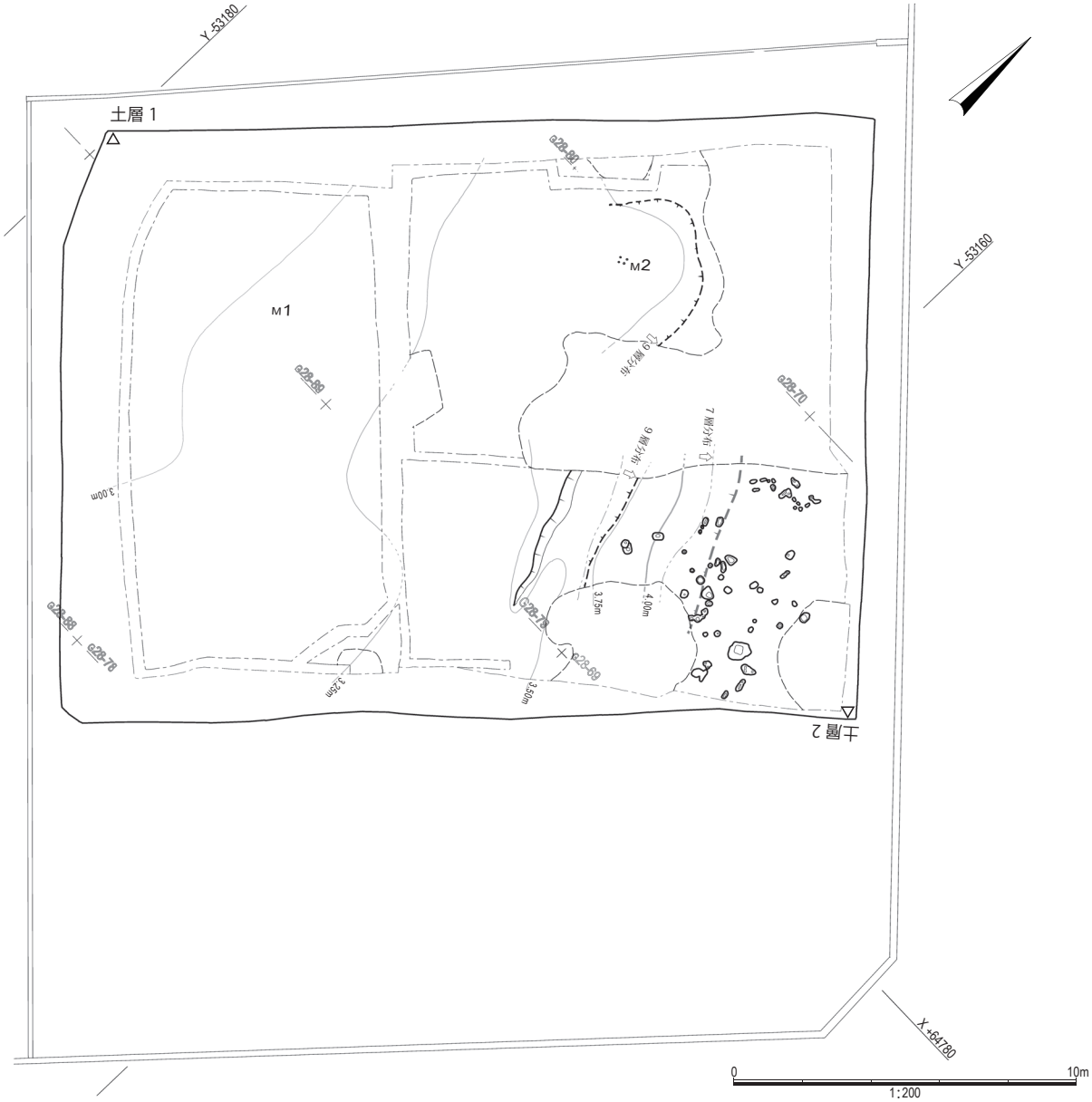


図 3 比恵 135 次調査区全体図（1：200)

1区の調査（図3･5･6･7）　1区は調査地の西 1/3 の範囲で、埋没谷 (谷 1 とした) の谷底部にあたる。2014 年 10 月 14 日着手。

調査では、確認調査の成果をもとに、表土層を機力で除去した。135 次地点は 80 次調査区から続く谷部に当たり、谷底の遺物包含層は予測されていたが、その上位の谷埋積土中には水田の可能性が報告されていた。このため、表土鋤取りを段階的に行い、各段で遺物および水田の確認を行いながら掘り下げを進めた。結果、谷底の包含層に至るまで、水田の検出をみないまま、谷底の下層部から遺物包含層を検出し、人力での調査に切り換えた。調査面は、1 区西部では現地表から深さ 2 m程となり、涌水がみられた。そのため、調査区周囲に排水溝を掘削、水中ポンプによる排水を行いながらの調査となった。ところが終日排水できる条件が整わず、調査時間中のみ、溜まり水を排水しながらの作業となった。このため、調査面が水を含んだ状態のままで作業となり、木質遺物が出土したこともあって、ベルトコンベアーの取りまわしや作業員の移動等の障害となっただけでなく、遺物の出土位置、特に出土層位を十分に確認できないままで発掘をせざるを得なかった。結果として、後述するように遺物出土層について幅をもった記述をせざるを得ないこととなった。1 区の調査は 11 月 31 日終了。

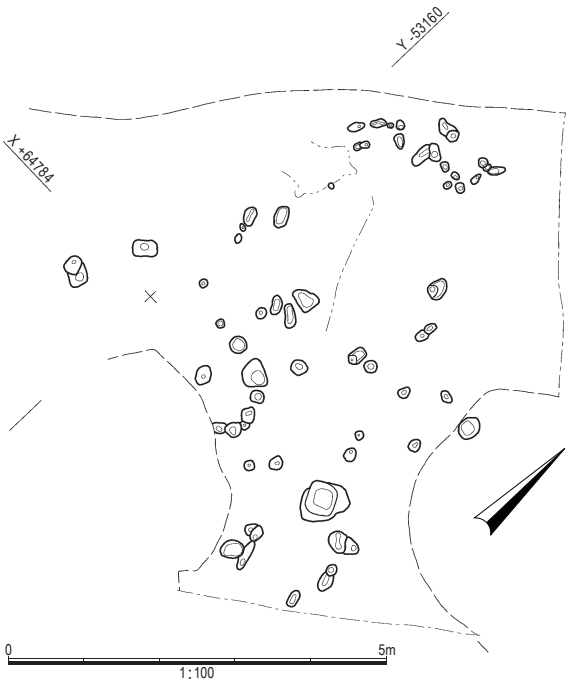


図 4 台地部遺構 (1：100)

2区の調査（図 3･5･8･10･11）　2 区は調査地の北辺部及び東辺部を占めるＬ字形の区画となった。2 区の西半部は 1 区に続き谷底にあたるが、東に向かって高度を上げ，台地東岸の高まりとなってゆくものと思われる。11 月 2 日表土鋤取りを行い、谷埋積土の状況は 1 区で確認済であったので、下底部の包含層まで機力により鋤取った。東半部は台地部の存在が予想されていたが、既存建物の建築時と基礎除却時の掘削が重なって広い範囲に攪乱が及んでおり、確認することができなかった。しかし、この攪乱を廃土置き場として利用できたことから、調査区東辺に沿って 2 区を拡張したところ、台地部の遺存を確認することができた (図 5)。

2 区では、包含層の他に、やはり谷底部で杭を打設した遺構を検出した (遺構 2)。2 区の調査は、11 月 13 日終了した。

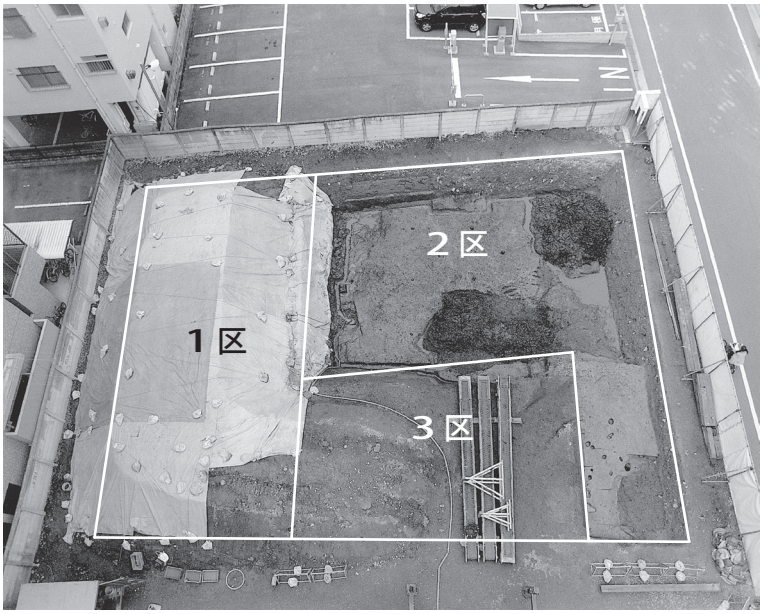


図 5 比恵 135 次調査区 (2 区調査　南東から)

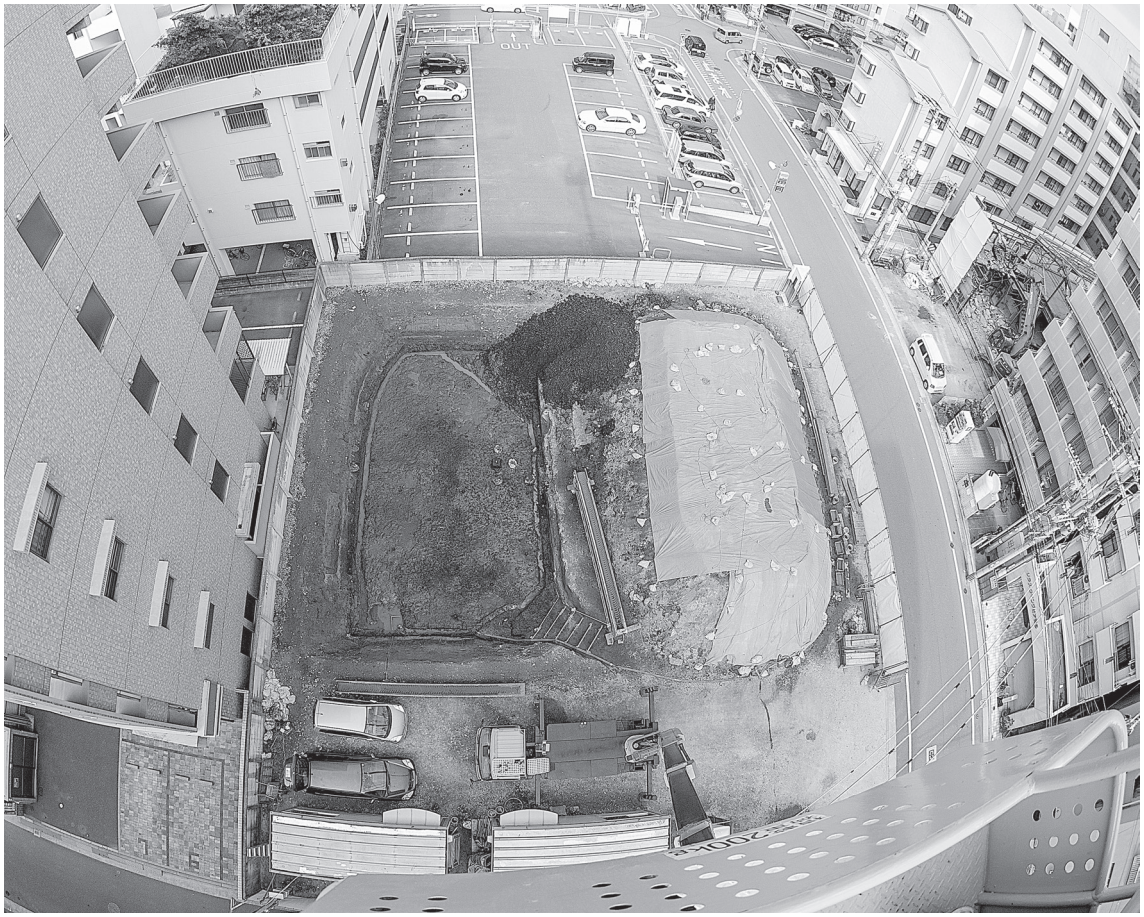


図 6 比恵 135 次調査区全景 (南東から)

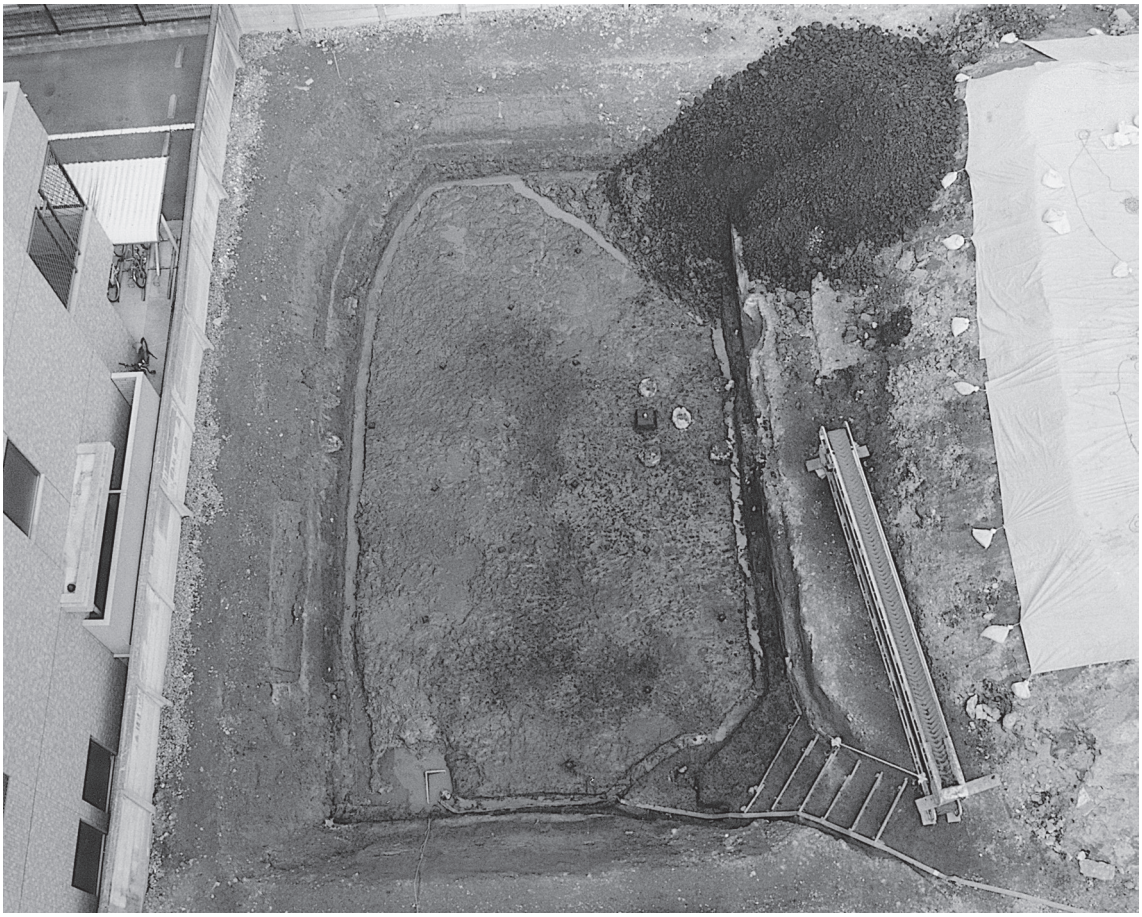
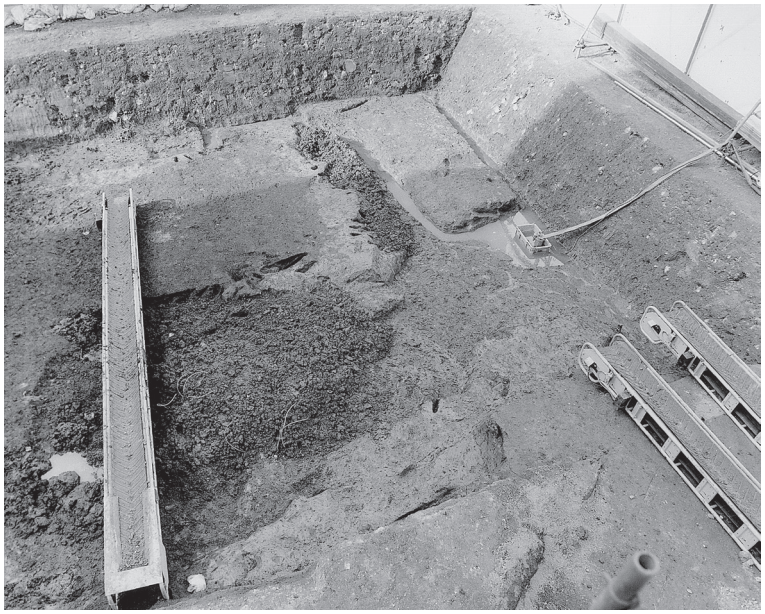
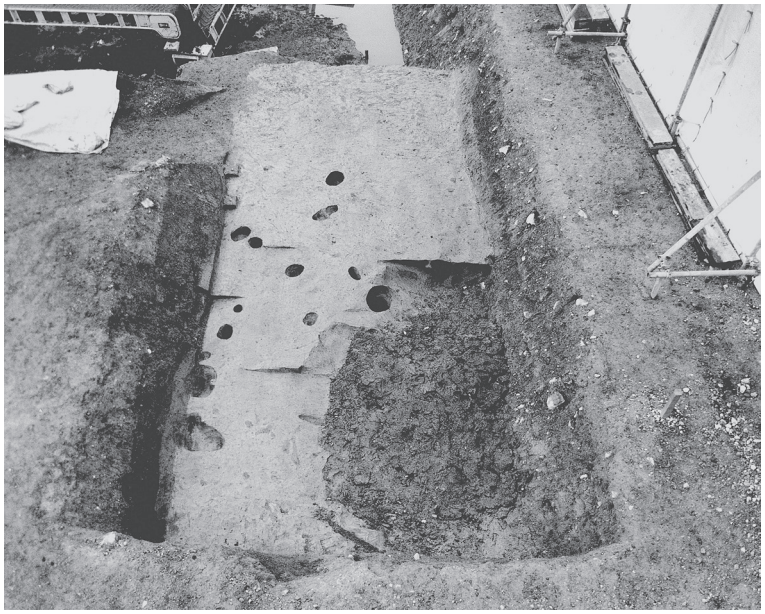


図 7 1 区全景 (南東から)

図 8 ２区全景 (南東から)

図 9 ３区全景 (南東から)





3区の調査（図 3･5･9）　対象地南辺部の残地について、2 区埋め戻しに合わせて土砂を反転、表土鋤取りを行い、3 区とした。台地部の遺存については 2 区の拡張区で確認しており、それから谷底へ下る斜面部の調査となった。調査は谷底部の包含層と台地部の遺構について行った。谷埋積層中では、足跡様の落ち込みを検出したことからそれの確認を行った。3 区の調査、現場作業を完了したのは 11 月 28 日である。

3 調査区を併せた比恵 135 次調査区全体の面積は、404㎡、出土遺物は、土器・石器類がコンテナ 8 箱、木製品等が 4 箱ほどの分量となった。小量が上層出土である以外は、全て谷底部の包含層 (9 層とした) 出土である。

2)　記録の方法

調査にあたり、近隣の既知点に依り、国土座標系に沿った調査区画を設定し、平面図での記録、遺物出土位置の記録に用いた。各区画について、座標系の 1㎞区画を 10 等分して 100 m区を設定、更にそれを 10 等分した 10 m区とし、更に 5 等分した 2 m区画とした。各区画は座標南東隅を原点として、Y 軸 (西) 方向の各区画の順番号を上の桁、X 軸 (北) 方向の順番号を下の桁に組み合わせて 2 桁で表記した。今回調査では、100 m区が 1㎞区内の西へ 2 列目の北へ 8 段目にあることから、調査区画を示す「G」に続けて「28 ー」以下 10 m区 (2 桁)･2 m区 (2 桁) を続けて表記し、出土区画を記録した (例 G28-7945)。

⇧ **図10**　2 区北東攪乱部 (南から)
⇖ **図11**　2 区南半部 (南東から)
⇦ **図12**　1 区 谷 1(G8845) 木製品出土状況 (西から)

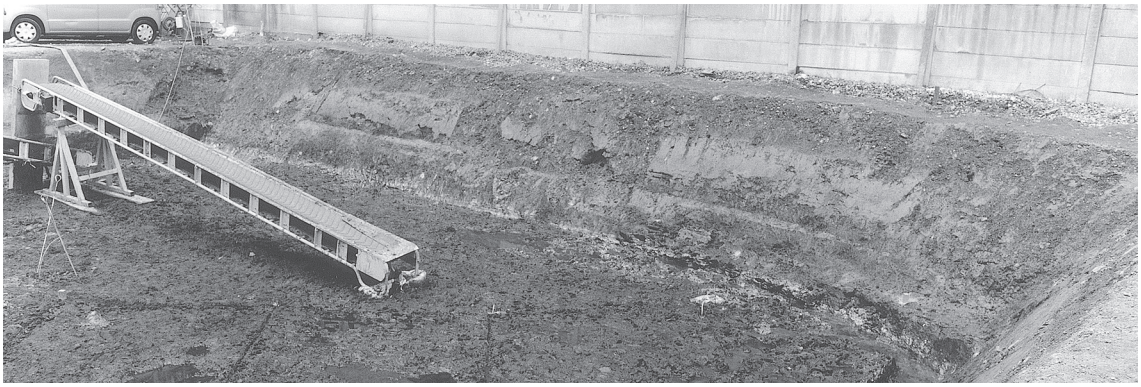


図13 １区西壁土層 (北から)

図14 １区北壁西半部土層 (南東から)

図15 ２区北壁東半部土層 (南東から)

図16 ２区南壁土層 (北西から)

図17 ３区南壁土層 (北西から)

包含層の遺物は、個体として取り上げたほかは、可能な限り上記２m区画を単位として取り上げた。現場での取り上げに際して、取り上げた遺物の単位に対して遺物番号を付し、台帳に登録した。整理に際しては、その番号を登録番号として利用し、さらに個体として抽出したもの、接合のため抽出したものについては、新規に採番し、これを登録遺物番号に加えた。今回調査では、現場で取り上げた遺物 118 件、整理の過程で追加登録したものを加えると 496 件となる。

遺構は、内容に関わらず連番で登録した。小穴は遺物を出土したもののみを登録した。今回調査では、遺構は遺存不良で、人為物ではない谷も加えて３件のみを登録した。

(2)　比恵 135 次調査出土の遺構と遺物

1)　出土遺構と遺物の概要

調査区は、現在の街区に沿った長方形の範囲となっているため、位置関係を示す記述は、北西側の長辺を北壁として以下右回りに東南西壁とする。調査区は東西壁間が 23 m、南北壁間が 17 mの規模である。それの南東部 1/3 弱の部分に台地の一部が遺存し、西側 2/3 は、埋没谷 (谷 1) となる。遺構は、谷底で四辺形を区切るように打設された杭、台地部で小穴を確認した。遺物は谷底に分布する包含層出土のものが殆どで、弥生時代前期から中期前半の土器のほか木器、石器が出土した。それ以上の層からの出土はごくわずかで、弥生土器以外の土器類は、極少数である。

2)　谷 1 出土の遺構と遺物

谷1 (図 3)

谷 1 とするのは、比恵遺跡群の立地する中位段丘を北西方向から開析する幅広い埋没谷であり、135 次調査区では、それの東岸部分を確認したことになる。比恵 135 次調査区では、東 1/3 以外は、谷 1 の範囲となる。調査区南北壁が谷 1 の東岸部を横断する位置にある。調査区西側が谷中央、東側が谷東岸台地となる。西調査区の南東側に台地部が残り、北東側は攪乱が大きく広がり、確認できない。周辺の調査から推定する台地肩部の位置は、調査区を斜めに通るものとされる。調査区及び谷 1 の土層を以下に示す。

谷1 土層 (調査区南北壁土層　図 13 ～ 18･19)　現況地盤は、立地の項で触れたように一帯に施工された区画整理による盛土によっている。調査地点では、0.5 mの厚さがある。ここでは、既存建物建築時の掘削、除却時の掘削も合わせて現代の人為層として 0 層とする。

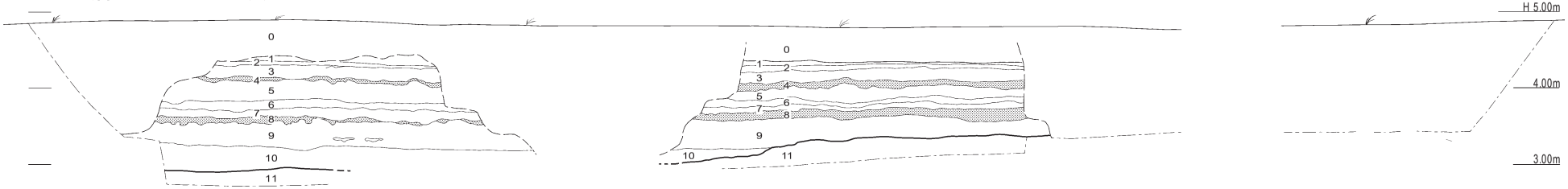
水田耕作土 (1 層) と床土層 (2 層) は、区画整理時に存在したのものであり、その開田時期は不明。調査では、壁面から近世以降とみられる磁器碗細片が出土した。南壁では、2 層下面は台地部の鳥栖ローム層直上にあってほぼ水平である。また、谷部の 3 層上においても同様であり、開田時に一定の地下げが行われたものかもしれない。

1･2 層は何らかの人為的影響を受けた部分であるが、3 層以下は自然堆積層と思われる。谷部の堆積 (谷の埋積土層) は、調査区西辺の最深部で 3 層上面から 1.4 mの深さにある。谷堆積層は、底面上の 10 層まで 8 区分したが、大きくは 3 層以下 5 層までの上部と、6 層以下 10 層までの下部とに区分できる。部分的な分布を示す層もある。

3 層 ･5 層は粗砂を顕著に含む灰黄褐色のシルト層で、間に黒褐色の粘土混じり砂層 (4 層) を挟んでいる。 6 層以下は黒褐色粘土層で、7 層と 8 層の間に黄灰色砂層を挟む。7 層は粗砂～細礫を含む。谷底を部分的に覆う。9 層も砂が混じり、植物断片を含む。中位にレンズ状の粗砂層が散在する。10 層では強雑物は少なく、底面は波状を呈す。

遺物としては、表土鋤取り時に 1 層で検出した陶磁器以外は、7 層まで遺物を確認できなかった。近

土層 1　比恵 135 次調査区北壁土層



0 層　表土 (現況造成土、建物基礎除去に伴う掘削部ほかの攪乱等)。
1 層　粘土質シルト 暗灰黄色 (2.5Y 5/2)。谷 (M1) 埋没後の水田耕作土か。
2 層　粗砂を顕著に含む粘土質シルト にぶい黄橙色 (10YR 4/3)、下層との境界明瞭。水田床土層か。
3 層　粗砂～細礫を顕著に含む粘土質シル ト 灰黄褐色 (10YR 4/2)、下層との境界不明瞭、漸移部あり。以下は何れも谷 (M1) の埋積土と思われる。
4 層　粘土混じり粗砂層　黒褐色 (10YR 3/2)、下層との境界明瞭。断続的に分布し、西壁・南壁には現れず、部分的に分布するものか。北壁面東半部では、砂塊部が分布せず、粘土中に粗砂が顕著に混じる状態で、上下層に分かれるようにも見える。3・5 層よりやや暗い。
5 層　性状は、3 層に同じ。
6 層　粘土 黒色 (7.5YR 2/1)、灰味強い感じ、下層との境界明瞭。
7 層　粗砂～細礫混じり粘土 (泥質) で、木質細片を含む。黒褐色 (7.5YR 3/1)、下層との境界明瞭、波状を呈す。極小量の遺物が出土するが、器表の磨耗が顕著である。
8 層　黄灰色 (2.5Y 4/1) 粗砂、にぶい黄褐色 (10YR 2/3) 細砂塊を含む。階層との境界明瞭。
9 層　砂混じり粘土質シルト 黒褐色 (10YR 3/1) 、灰色味強、階層との境界明瞭。木片を含む。西半部では、間に、レンズ状の粗砂層を挟む。遺物包含層。土器等は立位での出土がみられ、かなり移動したものと思われる。
10 層　シルト質粘土 黒色 (10YR 2/1)、褐色味強。下面波状。木片を含む、遺物包含層。
※調査時 9 層と 10 層の出土を区分することはできなかった。
11 層　シルト質粘土 褐灰色 (5YR 4/1)、八女粘土か。

土層 2　比恵 135 次調査区南壁土層

0 層　北壁に同じ。
1 層　水田耕作土、性状は北壁に同じ。
2 層　床土。性状は北壁に同じ。東半の台地部ではほぼ直下に地山 (鳥栖ローム層) がある。台地部では、地山に至るまで波状に変形して他の場所より堅く締まる部分があり、転圧等の工事の結果かと考えられる。
3 層　南壁で 3 層とした部位は、上下 2 層からなっている。その境界は不明瞭で、漸移する。上部は、北壁の 3 ～ 5 層に相当するものとみられ、砂混じりの暗黄灰色の粘土、下部は北壁の 5 層に相当するものとみられる。4 層相当部は欠落する。壁面から極小量の遺物採取。
7 層　砂混じりの黒褐色粘質土。台地側の 8 層を覆う位置では粗砂混じりの黒色泥炭質土となる。壁面から小量の遺物採取。
8 層　砂層。性状は北壁に同じ。壁面から極小量の遺物採取。
9 層　性状は北壁に同じ。下位に 10 層は分布せず、地山 (ここでは八女粘土層部か) に直接載り、台地側では下面が波状を呈す。
11 層　地山、台地部では鳥栖ローム層が残り、西半の谷部では八女粘土部が現れている。

0　2m
1:80

図18 比恵 135 次調査区土層図 (1) (1：80)

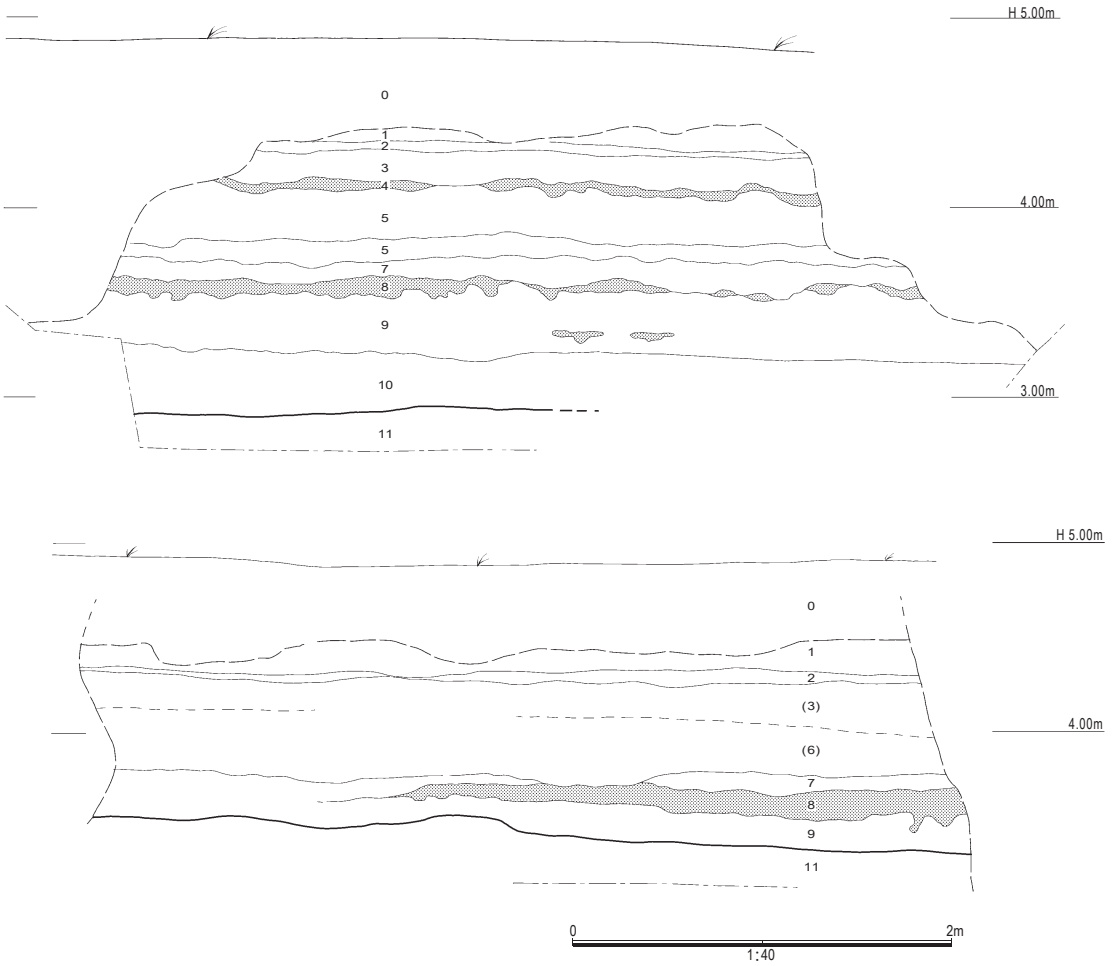


図19 比恵 135 次調査区土層図 (2) (1：40)

接する 80 次地点でもやはり谷底近くまでを機力により鋤取ったこともあって、この間の時期を示す資料は不明瞭である。本調査区出土遺物は、7 層から小量の土器片が出土したほかは、殆ど全て 9･10 層からの出土である。この位置から弥生土器のほか木器類、石器類の出土があった。調査の項に述べたように、涌水のため出土層位の確認が難しく、出土層位の区分をできないままで取り上げた。調査時の状況では、表土剥ぎでは 9 層下部で遺物の散布を確認、調査開始面としたしたこと、木器は谷底面よりやや浮いた位置から出土したものがあることなどから、9 層下部から 10 層上部の幅に遺物が多く含まれていたものであろう。

谷1の現況と旧状地形　谷 1 の谷底面には褐灰色の八女粘土層が現れており、調査区西辺部北壁側で標高 2.9 m、南壁側では 3.2 m近くとなる。谷底面は調査区西辺部から次第に高度を上げ、調査区中央部を過ぎた辺りで、3.5 m程となり、この位置で谷底面の立ち上がりが観察される。9 層の広がりはこの位置まででとなる。ここから等高線がやや密となり、標高 4 mを超えた辺りが、現況の台地肩部となる (図 3 太破線で示す)。実際は、ここが削平の肩線であり、更に東へ高度を増した位置に本来の台地肩部が想定される。現状で谷底と台地部の比高最大 1.2 m程となり、岸部について、削平された上部は不明だが、確認できる範囲ではごく緩く立ち上がる断面形を示している。南北壁間では、北壁側が 0.3 mほど低い。隣接する 80 次調査区でも同様の勾配があり、谷 1 の開口部への勾配を示し

ているものと考えられる。

谷 1 は、これまでの調査成果から比恵 24 次地点付近に谷頭が位置し、開口部は 135 次地点のやや北方で、29 次調査により確認した河川に合流するものと想定できる。また西岸は、24 次調査区から 115 次調査区まで北西方向に並ぶ一連の調査区で確認されている。谷の幅は、135 次調査区で検出した東岸と 115 次調査区で検出した西岸との間で、約 70 mの幅を持っていたものと復原できる。谷底部は隣接する 80 次地点でも調査されており、135 次地点北壁のほぼ延長上にある調査区北壁の土層からその底面高度が変わらず西岸方向へ続いていることが分かる。更に西岸では、135 次地点で確認したように緩く立ち上がる岸部を 25 次地点ほかで確認されている。以上から、谷 1 は、広く平らな谷底から、両岸の低い台地部に緩やかに立ち上がる様な景観をもった地形であったと復原できる。その西岸にある調査区の、特に谷奥部では多量の遺物が岸沿いに散布するだけでなく、谷部 (水辺) に結びついた遺構が残されている。

谷1包含層出土遺物 (図 20 ～ 28)　土器類は小量の石器類を合わせてコンテナ 8 箱ほどの分量が出土した。ほかに木器類が 20 点余り出土した。土器は 1 点を除いて全て弥生土器であり、底部を除いてほぼ全て細片化した資料である。器形は壷と甕が殆どを占め、浅鉢、蓋、鉢等がごくわずか含まれていた。石器類は、利器は小数で器具が多いが、大多数は石器製作残滓である。木器類は、農具のほかに板材等が出土している。杭は、遺構 2 の項で述べるように 2 箇所で、小数検出したのみである。

以下、遺物個別の詳細は後掲表 (表 1 ～ 7) で記述し、概要をここに示す。

土器については、細片資料が大半であることから、資料数の多い壷と甕について、形状のわかる口縁部及び底部および、文様を残す体部破片を抽出分類してみた。

図 20 に 7 層出土ほかの土器を示す。7 層から出土下土器は全て弥生土器である。弥生時代前期の壷、甕、中期の甕がある。209 は、9 層として取り上げた白磁碗口縁部であるが、攪乱部の縁に当たり、ほかに新しい遺物が皆無なことから出土層位に疑問が残る。表面に褐鉄鉱が付着しており、上位の砂層 (4 層) 等からの出土か。

21 図に壷資料を口縁部、文様のある胴部、底部の順で示すほかに、浅鉢を示す。浅鉢 (222) は、口縁部付近の細片、黒色、箆磨き調整、口 縁に斜交する赤色顔料塗彩の平行条線が残る。壷口縁部は 3 分類した。上段は、小形、外面が低い段を持って肥厚、外反する。中段は、内面が肥厚し、口縁端面を形成する。端部上下縁に刻み目を持つものがある。下段は口縁端に粘土板を貼り付け、鋤先状に成形するもの。中段に文様のある胴部資料を示す。212 が赤色顔料による羽状文を塗彩するほかは、切削による施文を行う。上 3 段は羽状文、或いはそれと圏線とを組み合わせるもの、下 2 段は、圏線及び、弧線を刻むもの (221) である。刻線は貝殻腹縁を用いるものと箆状の工具を用いるものがある。後者には、極鋭く薄い刃先を思わせる刻線のものがある。

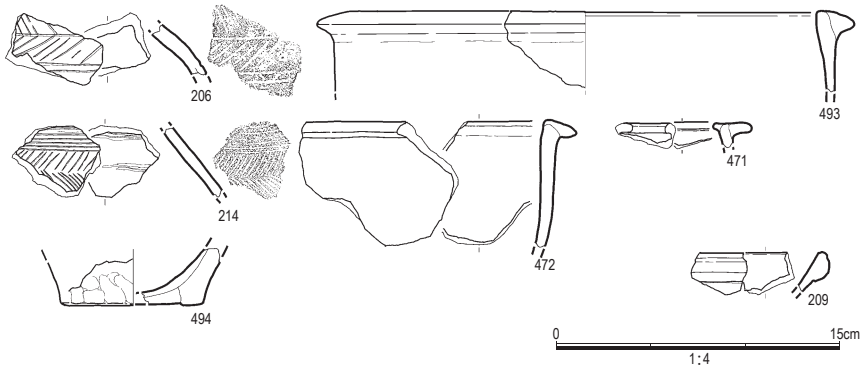


図20 谷 1-7 層出土遺物 (1：4)

図 22･23 に甕を示す。図 22･23 上段に口縁部、図 23 下段に底部を示す。

図 22 上段は、外反する口縁部 (A 類) で、前期のものと考えられる。その上段は口縁端を丸く収めるもの (A-1 類)。

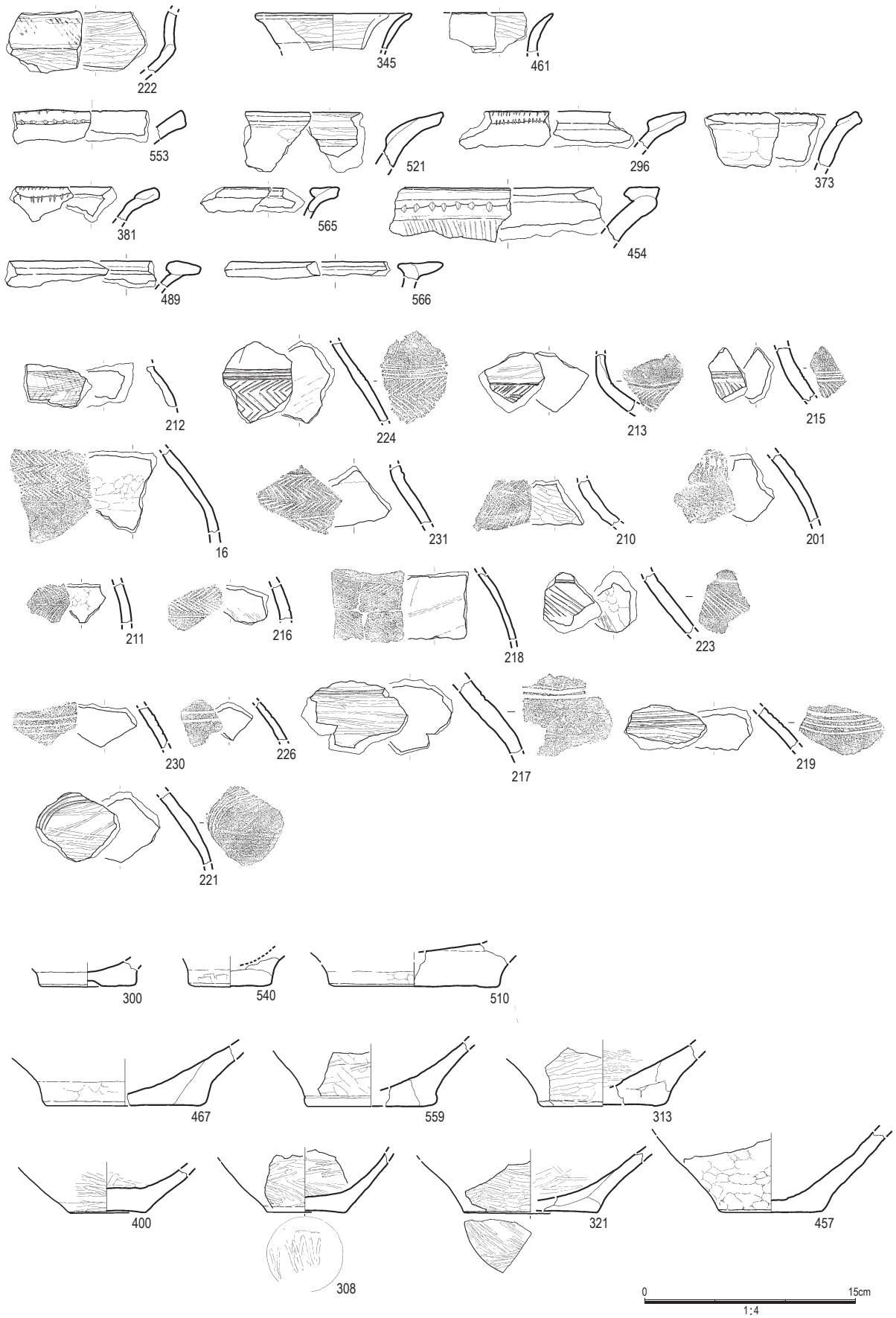


図21 谷 1-9 層出土弥生土器実測図 (1) (1：4)

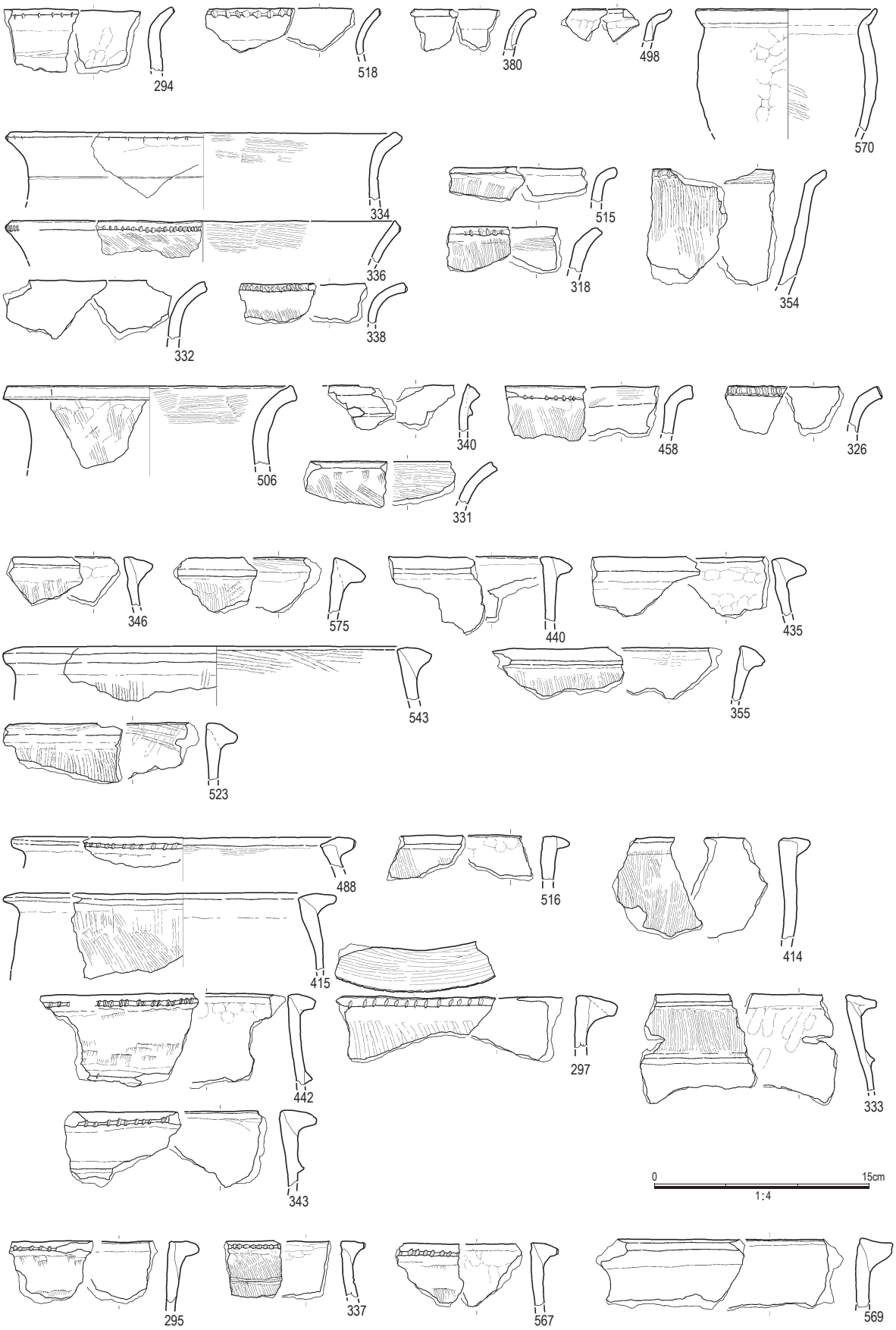


図22 谷 1-9 層出土弥生土器実測図 (2) (1：4)

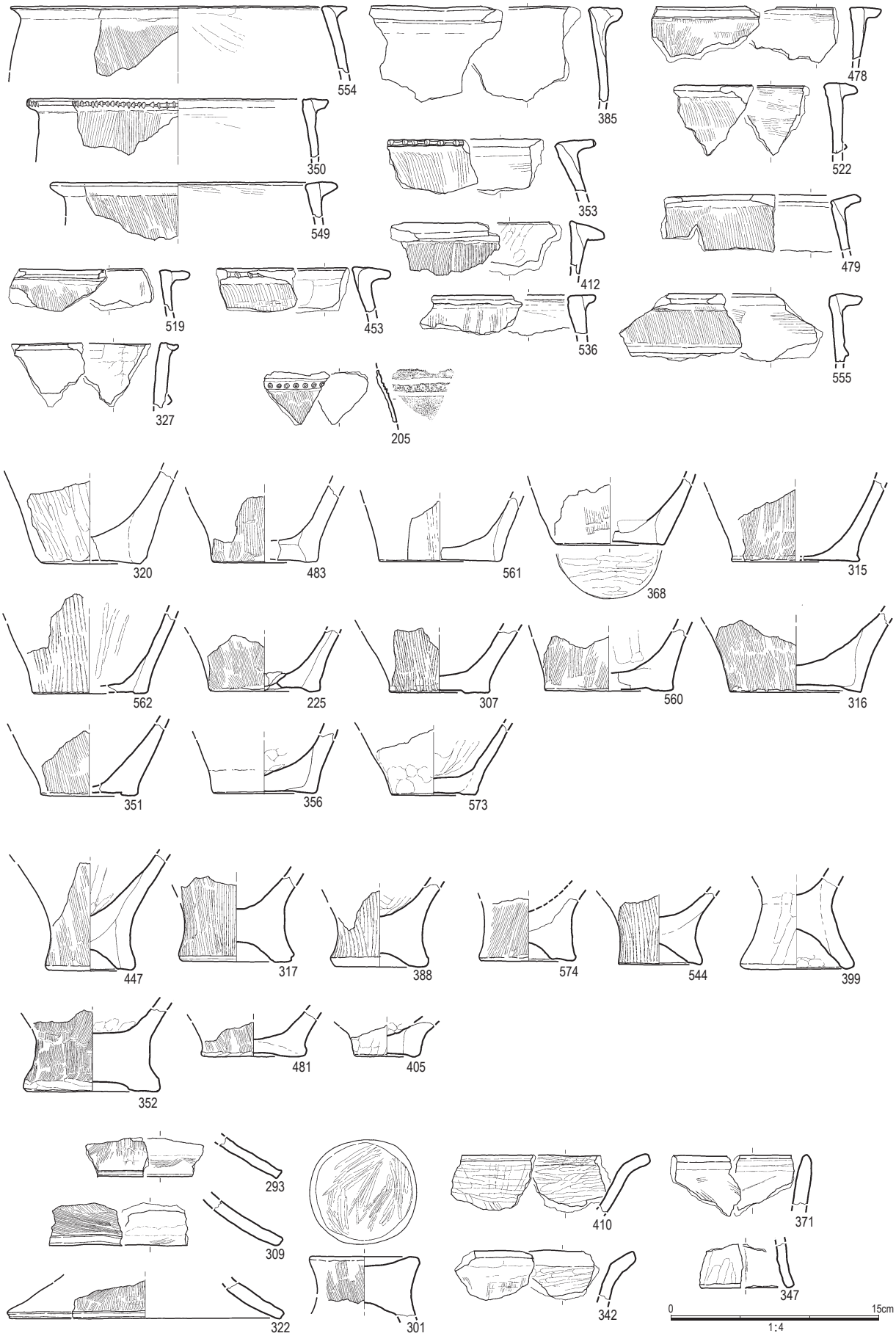


図23 谷 1-9 層出土弥生土器実測図 (3) (1：4)

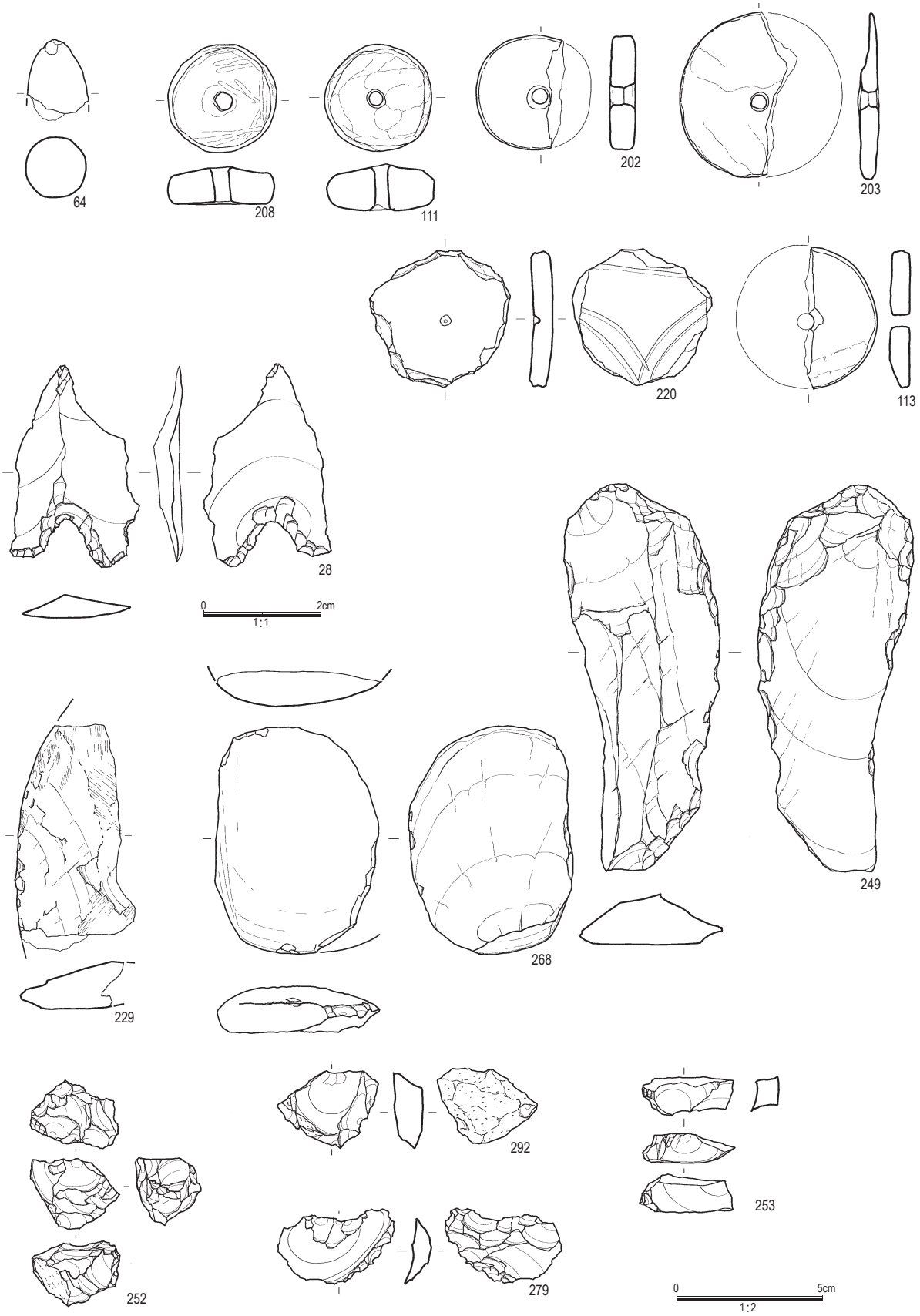


図24 谷 1-9 層出土石器実測図 (1) (1：1,1：2)

図25 谷 1-9 層出土石器実測図 (2) (1：2)

中段は、外面側を丸く治め、内面側には稜が残るもの (A-2 類)。下段は、内外面の調整が、口縁端を挟み込むようになって、口縁に端面を形成するもの (A-3 類) と区分した。それぞれ外面側に刻み目を施すものがある。図 22 下段は、口縁部外面に粘土を付け足し、鍔状の口縁に成形するもの (B 類) である。中期前葉から中葉か。これらは口縁部断面が三角形で、上端面が弧状を呈すもの (B-1)、端部上下の厚さが小さくなり、折り返した様な形となり、上端面がやや平坦になり、その内面と成す角度が直角に近くなるもの (B-2)、その傾向がより強くなり、上端面の平坦化が進むもの (B-3) がある。

23 図上段の最後に示すものは、甕体部から剥落した外面器表部か。2 条の圏線間に竹管押捺文が並ぶ。23 図下段は、底部資料である。そのうち、上段は平底で、前期に属するものか。下段は厚く、突出した底部で、中期前葉か。前者の外底面は中央部が周縁部より一段窪む例があり、底面整形時の充填の痕跡か。405 は壺底部の可能性がある。

図 23 下段は上記以外の器形資料である。293・309・322・301 は蓋である。301 は甕底部と区別が難しいが、図上上面の調整が丁寧である。410・342・371 は鉢か。347 は、筒状の器形の裾部と見えるが、具体的な器形を復原できない。

図 24・25 に土製品・石器類を示す。64 は土製投弾、208・111 は土製紡錘車。220 は、土器片を利用した紡錘車未成品である。前期壷胴部破片を利用し、中央の孔が未貫通。203・113 は石製紡錘車。中段に利器を示す。28 は剥片鏃、229 は石斧体部細片でともに縄文時代資料である。268 は、剥片となっているが、太型蛤歯石斧の刃部が衝撃で剥落したものである。249 は、剥片利用の石器で縁部両面に剥離痕が連続する。

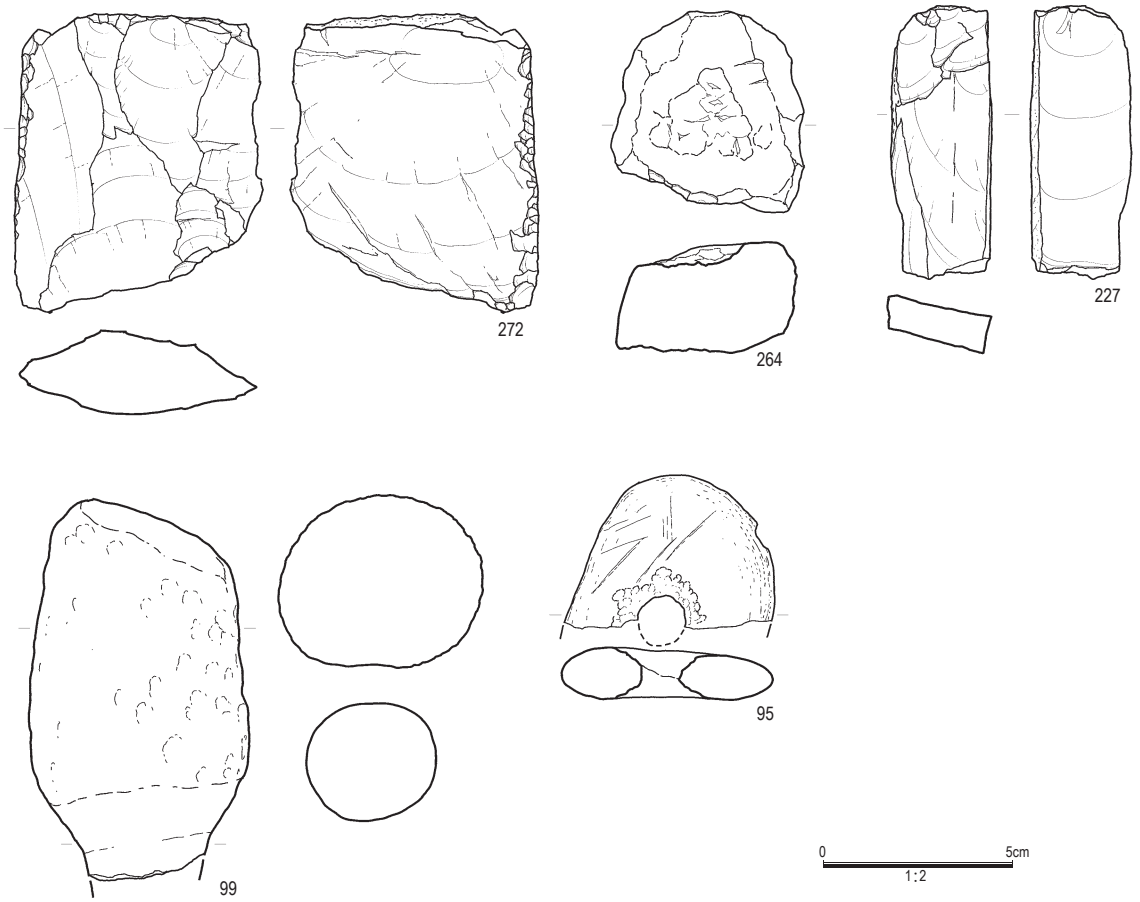


図26 谷 1-9 層出土石器実測図 (3) (1：2)

図27 谷 1-9 層出土木器実測図（1：4,1：8）

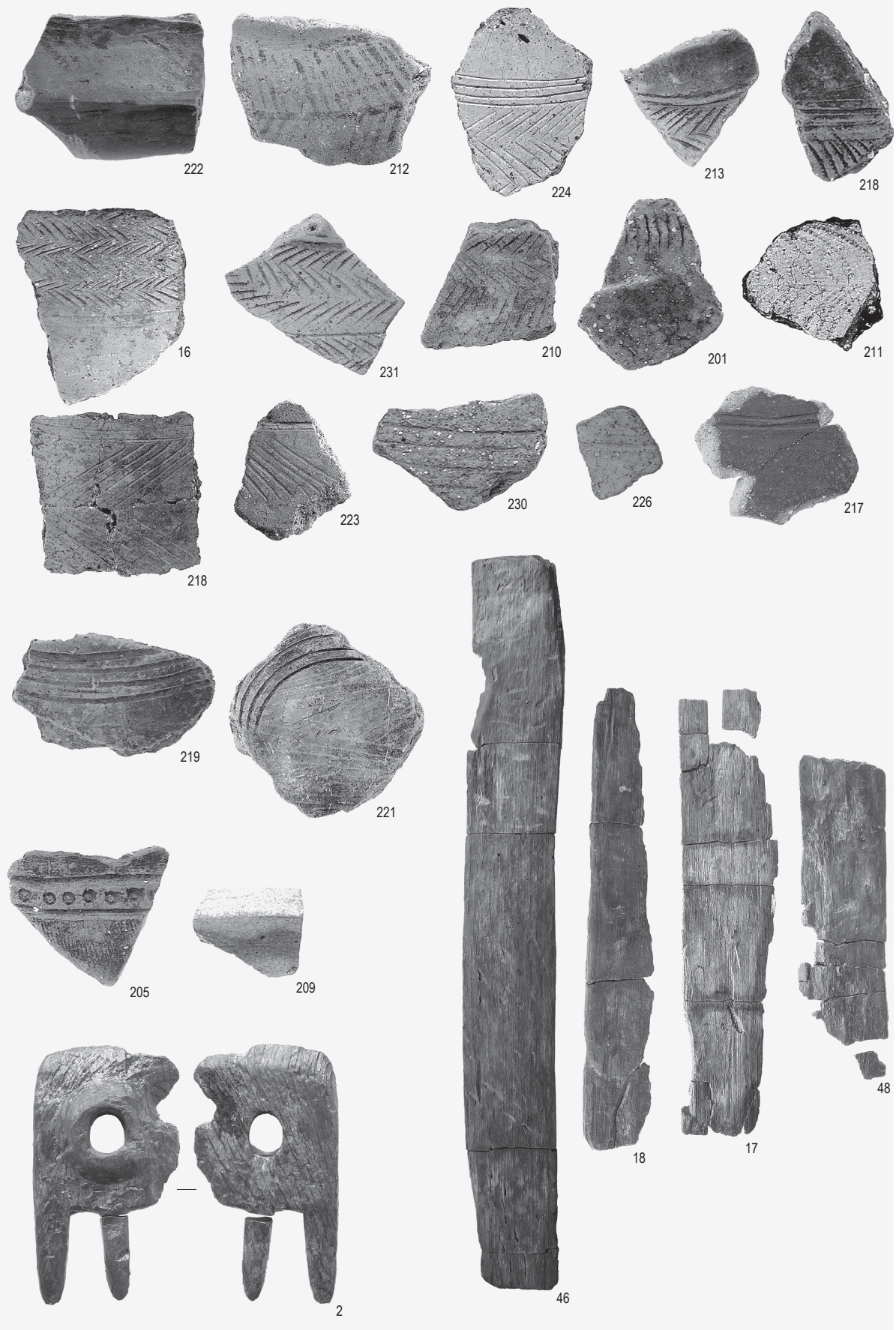

222
212
224
213
218
16
231
210
201
211
218
223
230
226
217
219
221
205
209
2
46
18
17
48

図28 谷 1 出土遺物

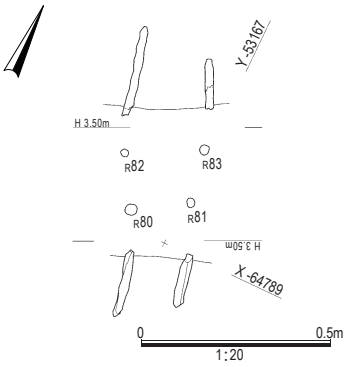


図29 遺構 2 (1:20)

252・292・253・25 図 254 は石核とする。小形で、剥離作業面が単面で構成される点、石核としては疑問。279 は両面に加工が行われる、未成品か。228 は石斧頭部破片利用の砥石。54 は、各面に溝状の凹面が残り、溝砥石といったものか、固結の弱い砂岩利用。290 は石皿とする断片資料。248 は稜部に打潰状痕が残る敲石か。288 は多面体状の砥面をもつ砥石。265・258 は柱状の砥石、砥面は撓曲して置き砥石か。図 26 の 272 は剥片の縁部に剥離痕が連続する石器。剥離痕は使用によるものか、他遺跡の調査では次第に打ち潰し状に進行してゆく資料がある。264 は凹石。227 は、頁岩製剥片、側面は節理に沿い剥離、直方体を呈す。99 は穿孔具、全体を敲打により整形、先端部は磨滅して断面楕円形状。95 は、中央に敲打による穿孔を行っている。図 27 に木器を示す。2 は、三叉鍬、片側を欠く。50・31・580・579 は柄とする。50・580 は柄尻部。50 は全体を長軸方向の細かな切削面で整形している。31・580 は同一個体か。17・18・46・48 は板状の資料、46 は表面を削って調整し、側面と端面を面取りする。構造部材の可能性があるが、固定や組み合わせのための加工は残されていない。他はみかん割り材。106 は、細かな切削面で尖頭部を造り出す。

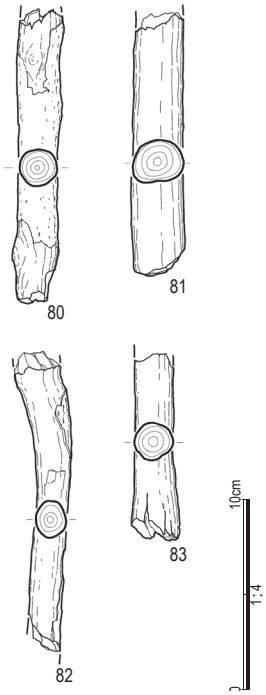


図30 遺構 2 出土杭 (1：4)

遺構2（図 29）

谷 1 底では、包含層以外に遺構 1 基を検出調査した。遺構 2 は、2 区調査時 28-7845 区の谷底面で 9 層掘り下げ時に谷底面で検出した。四辺形に区画するように杭を配するだけの遺構である。杭の間隔は 20cm 余から 15cm 程度であり、平面台形状を呈す。杭は細く短い。最も長い杭 82 は、出土時の長さ 25cm ほど (取上時先端部破損)、短い杭 83 は長さ 10cm 足らずで、地山八女粘土層に打ち込まれていた。、径は杭 81 で 2.6cm、杭 82 は 1.8cm ほどのものである。何れも、樹枝や低木の樹幹部を利用するが、杭として先端部に尖端を造り出すことをせず、切断時の状態のまま打ち込んだものと見え、尖端の亀裂に地山粘土が挟まった状態で出土した。杭の頭部は 9 層掘り下げ中には確認できなかった。周囲に植物遺物が遺存することからすると、9 層より上位から打ち込まれたものではなかったと思われる。杭のほかにその性格を示すような出土遺物、出土状況は確認することができなかった。

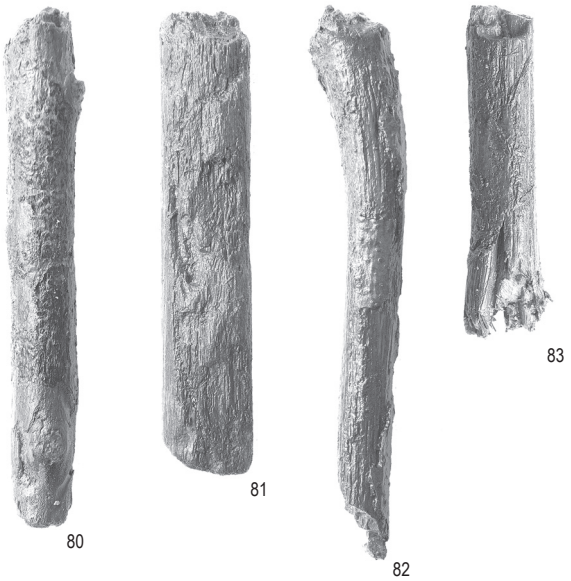
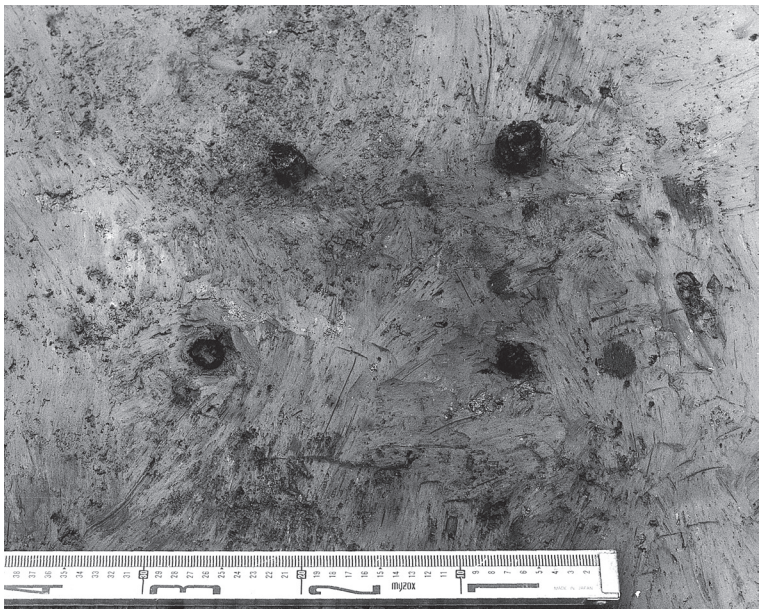


図31 遺構 2 出土杭

打設された杭は、これのほかに 5 m程離れた南でやはり谷底の八女粘土層に打ち込まれた 1 本を検出したのみである。

遺構 2 出土遺物（図 30・31）　80 ～ 83 は何れも杭である。丸木材で、樹皮の遺存するものとしないものとがある。切断のための切削痕も不明瞭。



3)　台地部の遺構と遺物

台地部遺構を図４に示す。台地部は調査区南東隅に７ｍ四方が残るのみである。台地部は北壁に向かって、方位でいうと北西方向へ延びるようであるが、実際は攪乱によって失われ、調査区壁面でも確認できない。台地部の現況は、先に触れたように削平の結果である。それに依るものか、遺構の分布は極疎らである。調査時には、弥生土器の出土により１基を登録したが、柱痕跡などは確認できず、柱穴といったものか否かはわからない。小穴とするものの多くは、不整であるか、先細りしたり、斜めに入ったりとおそらく樹根等の痕跡と思われるものである。図４中、二点鎖線より谷側の緩斜面にはそういった痕跡が多数分布する。

引用参考文献

福岡市埋蔵文化財調査報告書
吉留英敏 編　1991
『比恵遺跡群』10　255 集
（比恵 24 次・25 次調査）
菅波正人ほか 1992
『比恵遺跡群』11　289 集
（比恵 32 次調査）
本田浩二郎 編　2004
『比恵』36　822 集
（比恵 80 次調査）
榎本義嗣 編　2011
『比恵』61　1131 集
（比恵 117 次調査）

⇧**図32**　遺構２（北から）

⇖**図33**　遺構２断面（南から）

⇦**図34**　遺構２断面（北から）

3 まとめ

比恵 135 次調査では、比恵遺跡群の立地する中位段丘の北端近く、北に開口する埋没谷部の東岸部の調査を行った。調査では、調査区の南東部を通り、谷の東岸が北西方向に向かうことを確認した。

調査区南東部に残る台地部では、遺構の分布は疎らである。谷部には底面近くの堆積層中に弥生時代前期から中期前葉にかけての遺物の散布があった。土器に混じって石器類、木器が出土した。同様の状況は、西接する 80 次調査にみることができ、南東の 117 次点でも包含層の形成が認めらる。遺構遺物の集中する埋没谷西岸から距離を置いた区域の状況を示すものであろう。今回調査も合わせて、この埋没谷の状況を知ることができる。谷は、135 次地点において対岸との距離 70 m程の幅があり、奥行きはそこから 80 m南東の 24 次地点あたり、谷開口部は 29 次地点で確認した台地北縁の延長線との交点で、北西へ 30 m程の位置と復原できよう。谷底は広く、平坦で、開口部に向かう緩い勾配がある。谷の深さは 135 次地点で 1.2 m、南東の 117 次地点では 1.5 m程で、岸は緩やかに立ち上がる。

その底面付近に包含層が形成される。弥生時代前期から中期初頭の遺物を含み、木器も遺存するが、密度は比較的低い。それ以降の谷の埋没過程を示す資料としては、117 次調査では、下部包含層から弥生時代中期後半の遺物が出土したとされる。135 次調査では白磁碗の存在が問題となるが、出土位置について、疑問がもたれる。南の 25 次調査では、旧地表である水田開田時の整地層とされる層から奈良・平安時代の土器の出土が、それの下位層から隣接する 32 次地点とあわせて弥生時代後期前半の土器が小量出土している。

これらの遺物が谷埋没の過程を示すものとして、その量は小量であり、135 次地点も含め、一帯は人間活動の場からは離れた位置にあったものかと思われる。谷部の水田としての利用は調査時の所見からする限り認めることはできず、むしろ一帯の大部分が沖積低地下に没して後、開田事業が行われたものなのかもしれない。

報告遺物観察表について　(表 1 ～ 7)

本表は、今回報告遺物の個々について記述する。
遺物は、報告掲載図毎に、遺物番号順に掲載した。項目は以下の通りである。

1) 図　　報告図番号。
2) 遺物番号　　登録遺物番号とする。
3) 遺物記述　　表の分量が限定されたので、記述項目を別項目とせず、以下の項目について、順に記述した。項目は、「＜＞」で示した。
   a. 分類 (種別 器種 細分の順に表記)
   b. 時期
   c. 出土位置　　調査区、遺構、出土層、出土区画 (先述した調査区画)
   d. 材質 (胎土・焼成)　　胎土は断面観察を行った。焼成については遺存環境に依ることが大きいため、特別な例以外は記述していない。色調は必要に応じて断面も記述した。石器類、木器類等は素材についても記述した。
   e. 成形・調整　　製作技術上の観察を記した。
   f. 特記　項目立てした以外の事項について記した。
   g. 遺存状況　　遺存する分量、部位のほか、器表の状態について記した。続けて、計測を行ったものについては、その計測部位と精度、計測値を記した。

別に、遺物番号順の図索引を付した (表 8)。

図	遺物番号	遺　物　記　述
20	**206**	弥生土器 壷（弥生/前期）　3区 M1-7層-G7913　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密だが粗砂を含む。 断面：層状で空隙を生じる。 器表：浅黄色(10YR 8/3)。 ＜遺存状況＞肩部細片、器表荒れて縁部磨滅
20	**209**	白磁 碗（古代末）　2区 M1-9層-G7932　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：僅かに粒状、孔隙を生じる。 器表：内外面に施釉。有は、発泡して半透明。 ＜特記＞大宰府Ⅳ類 ＜遺存状況＞口縁部細片
20	**214**	弥生土器 壷（弥生/前期）　2区 -G7834　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性あり。粗砂を含む(～1mm、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：外面暗灰黄色(2.5Y 5/2)、内面～芯部黒色。 ＜成形･調整＞外面：撫で調整。頸部側に圏線、その下位に周回方向の羽状文(鋭利な篦状工具による)。 ＜遺存状況＞肩部細片
20	**471**	弥生土器 甕（弥生/中期中葉）　3区 M1-7層-G7913　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性顕著、細砂を顕著に含み、粗砂も混じる。 断面：磨滅するが、層状を呈す。器表：外面にぶい橙色(7.5YR 6/4)、内面にぶい黄橙色(10YR 6/3)。 ＜成形･調整＞口縁端外面側に粘土を貼り付け、平らな口縁に整形→口縁部内外面に周回方向の撫で調整。他は器表荒れて詳細不明。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表荒れて粉状に剥落。
20	**472**	弥生土器 甕（弥生/中期中葉）　3区 M1-7層-G7913　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：細礫を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：顕著に磨滅するが、団粒状か。 ＜成形･調整＞外面：大部分の器表剥落。 内面：撫で調整。口縁部：外面側の下面に周回方向の撫で調整。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表剥落(口縁～外面)
20	**493**	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　3区 M1-7層-G7913　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：現状は不明、現状で橙色(7.5YR 7/2)。 ＜成形･調整＞口縁部端外面側に粘土を貼り付け、肥厚させる。内外面とも器表剥落、調整不明。 ＜遺存状況＞口縁部小破片、器表全面剥落　口縁部径(復原)28.4cm
20	**494**	弥生土器 甕（弥生/前期前半）　3区 M1-7層-G7913　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を顕著に含む(径2mmほど、花崗岩起源か、強いガラス状光沢を呈する細粒があり、火山ガラスの可能性あり)。 ＜成形･調整＞底部は、内外方から粘土を詰めて成形したものか、内底面がやや窪む。 外面：底部付近に指押さえ痕→撫で調整。 内面：撫で調整か。 ＜遺存状況＞底部1/4周の破片、器表荒れ　底部径(復原)7.6cm
21	**16**	弥生土器 壷（弥生/前期）　1区 M1-9層-G8922　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性あり。粗砂を含み、硬質。断面：団粒状。器表：外面に色調のむらあり、上掛けを行うものか(明褐色(7.5YR 5/6)/鈍い黄橙色(10YR 6/3)。 ＜成形･調整＞外面：周回方向の篦磨き調整、篦描きによる圏線･羽状文。内面：中央部に指押さえ痕→撫で調整。 ＜遺存状況＞胴部細片
21	**201**	弥生土器 壷（弥生/前期）　1区 M1-9層-G7833　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を顕著に含む。 器表：褐灰色(10YR 6/1)。 ＜成形･調整＞外面：撫で調整。篦状工具による羽状文。 内面：撫で調整、凹凸が残る。 ＜遺存状況＞肩部細片
21	**210**	弥生土器 壷（弥生/前期）　1区 M1-9層-G7843　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を含む(径～2mm)。断面：団粒状。器表：暗灰黄色(2.5Y 5/2)。内面：黒色。 ＜成形･調整＞外面：篦描きによる羽状文、2段以上。内面：撫で調整、器面に不規則な凹凸顕著→篦磨き調整(右下がり)。 ＜遺存状況＞頸部細片
21	**211**	弥生土器 壷（弥生/前期）　1区 M1-9層-G7853　＜材質(胎土･焼成)＞ 胎土：やや粒状性、粗砂を含む(花崗岩起源か)。断面：団粒状。器表：外面灰白色(2.5Y 7/1)、内面斑状に黄灰色(2.5Y 6/1)。 ＜成形･調整＞羽状文(貝殻腹縁による)。 ＜遺存状況＞胴部細片、器表遺存良。
21	**212**	弥生土器 壷　1区 M1-9層-G7854　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性、粗砂を僅かに含む。断面：団粒状。 ＜成形･調整＞外面：周回方向の篦磨き調整→右周回方向の有軸羽状文(器表は黒色、赤色顔料彩色により彩色)。内面：剥落するが、凹凸が残る。指押さえ痕か。 ＜遺存状況＞胴部細片、器表やや磨滅。
21	**213**	弥生土器 壷（弥生/前期）　2区 M1-9層-G8913　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を含む(花崗岩起源か)。断面：団粒状、細孔を生じる。器表：灰黄褐色(10YR 4/2)。 ＜成形･調整＞頸部下縁に突帯1条、突帯下に周回方向の篦磨き調整、以下の胴部に羽状文(貝殻腹縁による)。 ＜特記＞外面に滲み状の付着物。 ＜遺存状況＞頸部細片、内面荒れて、器表剥落
21	**215**	弥生土器 壷（弥生/前期）　2区 M1-9層-G8914　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：砂味強、粗砂～細礫(花崗岩起源か)を顕著に含む。断面：団粒状。器表：にぶい黄褐色(10YR 5/3)。 ＜成形･調整＞上位に圏線(丸棒状の工具による凹線)，圏線より上位は周回方向の撫で調整。下位に周回方向の羽状文(貝殻復縁による)。内面：撫で調整。顕著な凹凸を残す。 ＜特記＞器表に煤状の付着物が、斑状に残る。 ＜遺存状況＞胴部細片
21	**216**	弥生土器 壷（弥生/前期）　2区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂～細礫を含む。断面：団粒状。器表：暗オリーブ褐色(2.5YR 3/3)、断面は灰色(2.5Y 6/2)を呈す。 ＜成形･調整＞外面：周回方向の羽状文(貝殻腹縁による)、下位に1条の沈線。内面：撫で調整を行う。器表は平滑、条線が残る。 ＜遺存状況＞胴部細片
21	**217**	弥生土器 壷（弥生/後期）　1区 M1-9層-G8911　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を顕著に含む(花崗岩起源か)。断面：団粒条、部分的に層状。器表：外面：黒化。内面(深部も含め)灰黄色(2･5Y 7/2)。 ＜成形･調整＞外面：周回方向の篦磨き調整→圏線2条(丸棒状の工具による沈線)。 内面：撫で調整。 ＜特記＞下縁部の割れ面が擦れて丸みを帯びる。 ＜遺存状況＞胴部細片
21	**218**	弥生土器 壷（弥生/前期）　1区 M1-9層-G8911　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を含む(径～1mm、花崗岩起源か)。器表：褐灰色(10YR 4/1)。 ＜成形･調整＞外面：撫で調整→周回方向の沈線(2条)下に、斜交する条線(全周しない)。内面：撫で調整を加えるが、整形時の凹凸が顕著に残る。 ＜遺存状況＞胴部細片
21	**219**	弥生土器 壷　1区 M1-9層-G8932　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性あり。粗砂を顕著に含む(花崗岩起源か)。 断面：層状(芯部と器表部が分離)。 器表：灰黄褐色(10YR 6/2)。 ＜成形･調整＞外面：周回方向の篦磨き調整。頸部側に圏線(4条の断面弧状の沈線)。 ＜特記＞外面に滲み状の付着物か。 ＜遺存状況＞肩部細片、器表遺存良。
21	**221**	弥生土器 壷　1区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を含む。 段：団塊条。 器票：浅葱色(2･5Y 7/3)。 ＜成形･調整＞外面：撫で調整・斜め方向の篦磨き調整→弧状の線刻文(条線平行し、櫛歯状の工具によるものか)。 ＜特記＞破片を整形したものか。 ＜遺存状況＞肩部細片
21	**222**	弥生土器 浅鉢（弥生/前期）　1区 M1-9層-G7843　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性、僅かに粗砂を含む。断面：細孔を生じる。 器表：外面黒色(2･5 Y3/1)、断面･内面は灰黄褐色(2.5Y 5/2)。 ＜成形･調整＞外面：全体に研磨(屈曲部以下に周回方向の篦磨き調整、以上は平滑に研磨)→顔料塗彩。赤色顔料で斜め方向の平行線、圏線を描く。赤色顔料剥落部には、黒色の痕跡が残る(赤色顔料は、暗赤色 10YR 3/6)。 内面：周回方向の篦磨き調整。 ＜遺存状況＞口縁部細片
21	**223**	弥生土器 壷（弥生/前期）　1区　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性あり。細砂～粗砂を含む(～1mm、花崗岩起源か)。 断面：やや層状。 器表：にぶい黄色(2･5Y 6/3)。 ＜成形･調整＞外面：篦磨き調整→頸部に2条の沈線･右下がりの条線(篦状工具により浅く、乾燥後の施文か)。 内面：撫で調整。下部に斜めの篦状工具なものによる圧痕。 ＜遺存状況＞肩部細片、器表遺存良
21	**224**	弥生土器 壷（弥生/前期）　3区 M1-9層-G7825　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を含む(径1mm前後が顕著。石英･長石が見え、花崗岩起源か)。断面：団粒状。器表：灰白色(10YR 7/19。 ＜成形･調整＞外面：撫で調整→4状の沈線下に周回方向の羽状文(篦描きによる)。内面：周回方向の撫で調整。 ＜遺存状況＞胴部細片
21	**226**	弥生土器　3区 M1-9層-G7921　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を含む。 断面：団粒状。 器表：灰黄褐色(10YR 6/2)。 ＜成形･調整＞内外面：撫で調整。外面に平行する圏線(3条)。 ＜遺存状況＞肩部極細片
21	**230**	弥生土器 壷（弥生/前期）　3区 M1-9層-G7825　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性あり、粗砂を含む(～2mm、花崗岩起源と思われる砂粒の他に、角閃石を僅かに含む。火山ガラスかと思われる細粒物を含む)。 器表：内外面とも灰黄褐色(10YR 5/2)、内面はにぶい黄色(2.5 YR)。 ＜成形･調整＞外面：周回方向の条線(沈線) ＜特記＞胴部細片 ＜遺存状況＞胴部細片
21	**231**	弥生土器 壷（弥生/前期）　3区 M1-9層-G7825　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、小量の粗砂･褐色粒を含む。 器表：にぶい黄橙(10YR 7/3)。 ＜成形･調整＞突帯下に周回方向の羽状文(多段有軸、貝殻腹縁による)。 ＜遺存状況＞胴部細片
21	**296**	弥生土器 高坏（弥生/中期）　1区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、細砂～粗砂が混じる（径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：灰黄色(2.5Y 6/2)。 ＜成形･調整＞口縁部：大きく外反する内面に粘土を貼り付け肥厚させ、上端面、外端面形成。 内外面、口縁上端面に周回方向の撫で調整。外端面の上下縁部に粗い刻み目。 ＜特記＞内外面に滲み状の付着物斑状に残る。 ＜遺存状況＞口縁部細片
21	**300**	弥生土器 壷（弥生/前期）　1区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性あるが均質。粗砂を僅かに含む(花崗岩起源か)。 器表：黄灰色(2.5Y 1/1)。 断面：やや団粒状。 ＜成形･調整＞内底面･底部外面：撫で調整。 外底面：剥落して調整不明、円盤状。 ＜遺存状況＞底部1/2周の破片、器表荒れ　底部径7cm
21	**308**	弥生土器 壷（弥生/前期）　1区 M1-9層-G8921　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を顕著に含む(花崗岩起源か)。 器表：外面の一部が灰黄褐色(10YR 4/2)のほかは、黒化、外面では斑状を呈す。 ＜成形･調整＞内外面とも篦磨き調整、短い単位で繰り返す。外面では左上～右下、内面は接線方向に粗目。外底面では接線方向に往復する篦磨き調整。わずかに上げ底状。 ＜特記＞底部全周遺存、器表遺存良 ＜遺存状況＞底部細片　底部径5.5cm

表 2　報告遺物観察表

図	遺物番号	遺　物　記　述
21	**313**	弥生土器 壷（弥生/前期）　1区 M1-9層-G8813　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を多量に含む(花崗岩起源か)。 断面：団粒状、部分的に層状。 器表：にぶい黄色(2.5Y 6/3)。 ＜成形･調整＞外面：篦磨き調整(周回方向、斜めの短い単位)。 内面：刷毛目調整(周回方向)。 外底面：篦磨き調整(接線方向)、縁部やや膨隆し、わずかに上げ底状を呈す。 ＜遺存状況＞底部1/4周の破片、器表遺存良　底部径(復原)9.3cm
21	**321**	弥生土器 壷（弥生/中期前葉）　1区 M1-9層-G8845　＜材質(胎土･焼成)＞胎槌：やや粒状性あり、細砂～粗砂を含む(径3mmまで、花崗岩起源か)。 断面：層状。 器表：外面灰黄褐色(10YR 5/2)。 ＜成形･調整＞外面：篦磨き調整(短い単位で繰り返し、縦方向に帯状に進める、全体に蜜に施工)。 内面：撫で調整(部分的に条線が残る) 。 外底面：篦磨き調整(接線方向で短い単位を周回方向に移動しながら施工)。 ＜特記＞内面に滲み状の付着物。 ＜遺存状況＞底部小破片、器表遺存良　底部径9.6cm
21	**345**	弥生土器 壷（弥生/前期前半）　1区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性あり、細砂～粗砂を僅かに含む(シルト質粘土)。 断面：層状。 器表：にぶい黄褐色(10YR 5/3)。 ＜成形･調整＞内外面とも周回方向の篦磨き調整(口縁端部も同様か)。 ＜特記＞　＜遺存状況＞口縁部小破片、器表やや荒れ　口縁部径(復原)11.2cm
21	**373**	弥生土器 壷（弥生/中期前葉）　2区 M1-9層-G8913　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を顕著に含み細礫（赤色10YR4/6の焼土様粒)が混じる（花崗岩起源か)。 断面：層状。 器表：灰白色(2.5Y 8/2)。 ＜成形･調整＞外面：指押さえ痕→撫で調整(幅広い凹面を形成)。 内面：撫で調整。 口縁部：端面の上縁部に刻み目。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表やや荒れ
21	**400**	弥生土器 壷（弥生/前期）　2区 M1-9層-G7934　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を顕著に含む。 断面：層状。 器表(内面)：鈍い黄橙色(10YR 6/3)。外面の一部に黒斑。 ＜成形･調整＞外面･外底面：篦磨き調整。平滑で単位不明、光沢あり。 内面：内底面に指押え痕、全体に撫で調整か、砂粒が浮く。 ＜特記＞外面赤化、滲み状の付着物が残る。 ＜遺存状況＞底部全周遺存、器表遺存良　底部径5.5cm
21	**454**	弥生土器 壷（弥生/前期後半）　2区 M1-9層-G8914　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：細礫を含む(径3mmまで、脆い)。 断面：団粒状。 器表：にぶい黄色(2.5Y 6/3)、斑状ににぶい橙色(7.5YR 6/4)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦、粗目)→撫で調整。 内面：撫で調整。 口縁部：大きく外反する端部に粘土を載せ肥厚させる→上･外方に面を形成→周回方向の撫で調整→外端面の下縁に刻み目。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表やや荒れ
21	**457**	弥生土器 壷（弥生/前期後半）　2区 M1-9層-G8914　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂～細礫を含む(径3mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：灰黄色(2.5Y 7/2)。 ＜成形･調整＞外面：指押え痕→圏線(沈線)。 内面：指押え痕→撫で調整。 外底面：撫で調整。内外面は斑状に平滑面があり、光沢を持つ。 ＜特記＞内面に滲み状の付着物、外面では斑状に残る。 ＜遺存状況＞底部1/4周の破片、器表やや荒れ　底部径(復原)7.6cm
21	**461**	弥生土器 壷（弥生/前期後半）　2区 M1-9層-G7942　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性あり(シルト質粘土)、細砂を小量含む(0.3mm程度、火山ガラスが混じる可能性)。 断面：団粒状。 器表：にぶい黄色(2.5Y 6/3)。 ＜成形･調整＞外面：荒れて調整不詳。内面：周回方向の篦磨き調整(右下り)。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表荒れ
21	**467**	弥生土器 壷（弥生/前期後半）　2区 M1-9層-G7932　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：顕著な粒状性あり、粗砂を含む(花崗岩起源か、褐色焼土様粒も含む)。 ＜成形･調整＞外面：器表荒れて不詳。底部付近には指押え痕→周回方向の撫で調整(帯状)。 内面：撫で調整。 ＜遺存状況＞底部1/4周の破片、器表顕著な荒れ　底部径(復原)11.7cm
21	**489**	弥生土器 壷（弥生/中期中葉）　3区 M1-9層-G7911　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を顕著に含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：層状、器表以外は黒色。 器表：灰黄色(2.5Y 7/2)。 ＜成形･調整＞内外面とも撫で調整。 口縁部：上端面は周回方向の撫で調整、内面側に帯状の平坦面。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
21	**510**	弥生土器 壷（弥生/前期後半）　3区 M1-9層-G7835　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密だが細礫を顕著に含む(径4mmまで、花崗岩起源か)。 ＜成形･調整＞円盤状の粘土を当て、高台状に整形。外面：指押さえ痕→周回方向の撫で調整。内底面：指押さえ痕、撫で調整 ＜遺存状況＞底部1/4周の破片　底部径(復原)12.3cm
21	**521**	弥生土器 壷（弥生/中期中葉）　3区 M1-9層-G7825　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂、僅かに細礫を含む(径3mmまで、花崗岩起源か)。 断面：層状、細孔を生じる)。 ＜成形･調整＞外面：撫で調整、部分的に指押さえ痕(凹面を生じる)。 内面：周回方向の篦磨き調整(幅広)。 口縁部：端部は下縁→上縁の順に整形(丸め)→結果として端面に凹面を形成。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表やや荒れ
21	**540**	弥生土器 壷（弥生/前期前半）　3区 M1-9層-G7921　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：顕著な粒状性、粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団塊状。 器表：にぶい黄褐色(10YR 5/3)。 ＜成形･調整＞底部：円盤状の粘土貼り付け、高台状となる。 底部側面に篦状の工具圧痕。 内外面･外底面：撫で調整か。 ＜遺存状況＞底部2/3周の破片　底部径6cm
21	**553**	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　3区 M1-9層-G7931　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を僅かに含む(径2mmまで)。 断面：層状。 器表：にぶい黄橙色(10YR 6/3)。 ＜成形･調整＞外面：周回方向の撫で調整。 内面：撫で調整。 口縁部：端面の上下縁に刻み目。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
21	**559**	弥生土器 壷（弥生/前期後半）　3区 M1-9層-G7931　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：層状。 器表(外面)：灰黄色(2.5Y 4/2)。 ＜成形･調整＞外面：周回方向の刷毛目調整→粗目の篦磨き調整。 内面：全面剥落。 外底面：荒れて詳細不明。 ＜遺存状況＞底部1/4周の破片、器表荒れ、内面剥落　底部径(復原)9.5cm
21	**565**	弥生土器 壷（弥生/中期前葉）　3区 M1-9層-G7922　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：層状。 器表：黄灰色(2.5Y 1/1)。 ＜成形･調整＞外面：周回方向の撫で調整→篦磨き調整(疎林)。 内面：撫で調整。 口縁部：外反する内面側に粘土貼り付け→上･外端面形成→周回方向の撫で調整。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表やや荒れ
21	**566**	弥生土器 甕（弥生/中期中葉）　3区 M1-9層-G7922　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性あり、粗砂～細礫を含む(径4mmまで、花崗岩起源か)。 ＜成形･調整＞内外面･口縁上端面とも周回方向の撫で調整。 口縁部は外面に粘土を貼り付け、端面形成か。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表やや荒れ
22	**515**	(弥生/前期)　3区 M1-9層-G7825　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 器表：灰黄褐色(10YR 6/2)。 ＜成形･調整＞外面：口縁端部に撫で調整、以下は縦方向の刷毛目調整。内面：撫で調整。口縁部では、撫でつけるような整形→口縁端部撫で調整→口縁部内面撫で調整。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
22	**294**	弥生土器 甕（弥生/前期）　1区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を含む。 ＜成形･調整＞外面：口縁付近には粗い条線が残る(刷毛目調整工具によるものか)。以下の体部には撫で調整。やや下った位置に圏線(丸棒状の工具による沈線で、内面：撫で調整、指押さえ痕あり。 口縁端部下端に間隔を空けて刻み目(篦状工具か)。 ＜特記＞外面に煤状の付着物。 ＜遺存状況＞口縁部細片
22	**295**	弥生土器 甕（弥生/前期）　1区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を含む(径2mmまで)。 断面：層状。 器表：下位黄褐色(10YR 5/2)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦、極細目)、口縁直下とやや下った位置の2段に分けて施工＋ 内面：撫で調整(平滑)→口縁端直下に周回方向の撫で調整(強く押さえて凹線状を呈す)。→口縁部：周回方向の撫で調整。内面側の端部を丸く収め、外方の端部には面を生成。稜部を丸く収め、端部に浅い刻み目。 ＜特記＞口縁部端面～外面の全体に煤状付着物が斑に残る。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表やや荒れ
22	**297**	弥生土器 甕（弥生/中期）　1区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性顕著、細砂顕著に含み粗砂も混じる(径1mmを超えるもの小量)。 断面：団粒状。 器表：灰黄色(2.5Y 7/2)。 ＜成形･調整＞外面：体部刷毛目調整(縦)→口縁部に周回方向の撫で調整(口縁部上端面には周回方向の刷毛目調整)。端面上縁に刻み目。 ＜特記＞外面口縁端以下に斑状に煤状付着物が残る。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
22	**318**	弥生土器 甕（弥生/前期）　1区 M1-9層-G7842　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を含む(径2mmまで)。 断面：団塊状で褐色(7.5YR 4/4)～暗灰黄色(2.5Y 3/4)。器表：暗灰黄色(2.5Y 5/2)。 ＜成形･調整＞口縁部：撫で調整、端部下縁に刻み目(やや幅広)。 外面：口縁下から斜方向の刷毛目調整。 内面：口縁部に斜方向の刷毛目調整→体部に撫で調整。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
22	**324**	弥生土器 壷（弥生/前期）　1区 M1-9層-G7835　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、細礫を含む(径3mmまで、花崗岩起源か)。 器表：鈍い黄橙色(10YR 6/4)。 ＜成形･調整＞外面：周回方向の撫で調整、口縁部下に1条の圏線(丸棒状の工具による沈線)。 内面：周回方向の撫で調整、口縁端部には周回方向の刷毛目調整。 ＜遺存状況＞口縁部小破片、器表遺存良。
22	**326**	弥生土器 甕（弥生/前期）　1区 M1-9層-G7853　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂～細礫を顕著に含む(径3mmまで、花崗岩起源か)。 器表：にぶい黄褐色(2.5Y 6/3)。 ＜成形･調整＞内外面：撫で調整、口縁部付近の外面に周回方向の撫で調整。口縁端面の全幅にわたる刻み目。口縁部の整形：外面→端面→内面(周回方向の撫で調整)。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良

図	遺物番号	遺　物　記　述
22	**331**	弥生土器 壷 (弥生/前期)　1区 M1-9層-G7843　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を含む(径3mmまで、花崗岩起源か)。 器表：外面黒色、内目灰黄褐色(10YR 6/2)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(斜)→口縁端部周辺に周回方向の撫で調整。内面：周回方向の刷毛目調整(短い単位で繰り返し)。口縁端部は外面→端面→内面の順に整形。 ＜特記＞外面に煤状付着物か、全体に一様。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
22	**332**	弥生土器 甕 (弥生/前期)　1区 M1-9層-G7843　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂～細礫を顕著に含む(径3mmまで、花崗岩起源か)。 器表：にぶい黄褐色(10YR 5/3)。 ＜成形･調整＞外面：粗い刷毛目調整、縦方向、内面：粗い刷毛目調整(周回方向)→口縁部に周回方向の撫で調整→口縁端下縁に刻み目(幅広)。 ＜特記＞口唇以下の外面に煤状の付着物厚く残る(斑状)。 ＜遺存状況＞口縁部細片
22	**333**	弥生土器 甕 (弥生/中期前葉)　1区 M1-9層-G7854　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を顕著に含む(花崗岩起源か)。 断面：団粒状、口縁部付近では層状。 器表(内面)：灰黄褐色(10YR 6/2)。 ＜成形･調整＞外面：突帯貼り付け→周回方向の撫で調整→口縁部～突帯間に刷毛目調整(縦,密)＋内面：指押さえ痕→撫で調整→口縁部直下に周回方向の撫で調整(強く押さえて凹線状を呈す)。→口縁部：周回方向の撫で調整(口縁端面を形成、上下方から丸め)。 ＜特記＞口縁部以下の外面には斑状に煤状の付着物。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
22	**336**	弥生土器 甕 (弥生/前期)　1区 M1-9層-G7854　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を小量含む(径1mmまで、花崗岩起源か、雲母片を含む)。 器表：浅黄色(2.5Y 7/3)。 ＜成形･調整＞外面：斜め方向(右下)の刷毛目調整→周回方向の撫で調整,軽度。口縁部：端部に周回方向の撫で調整、下縁部に刻み目(間隔に疎密)。 ＜遺存状況＞口縁部小破片、器表遺存良　口縁部径(復原)27.5cm
22	**337**	弥生土器 甕 (弥生/中期前葉)　1区 M1-9層-G7854　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：細砂～粗砂を含む(花崗岩起源か)。断面：団粒状 器表(内面)：にぶい黄橙色(10YR 6/4)、明赤褐色(5YR 5/6)の円形斑がある。 ＜成形･調整＞外面：口縁部直下から刷毛目調整(斜右下)、やや下った位置に圏線2条(沈線)＋内面：口縁部直下に周回方向の撫で調整(強く押さえて凹線状を呈す)。→口縁部：条端面･外端面に周回方向の撫で調整、外端面に刻み目。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
22	**338**	弥生土器 甕 (弥生/前期)　1区 M1　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性、粗砂を含む(径～1mm、花崗岩起源か)。断面：層状。 器表：暗褐色(10YR 3/3)。 ＜成形･調整＞内外面：撫で調整。口縁部では周回方向に短い単位で行う。 外面：体部に縦方向の刷毛目調整。 ＜特記＞口唇以下の外面に煤状の付着物厚く残る。 ＜遺存状況＞口縁部細片
22	**340**	弥生土器 甕 (弥生/前期)　1区 M1-9層-G8834　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：層状(細かな間隙か)。 器表：にぶい黄色(2.5Y 6/3)。 ＜成形･調整＞外面：周回方向の撫で調整(突帯貼付後)、 内面：撫で調整(条線を残さず、器表に砂粒突出。器表が濡れた状態での調整か。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表の遺存良
22	**343**	弥生土器 甕 (弥生/中期)　1区 M1-9層-G8834　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を顕著に含む(花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表(内面)：にぶい黄橙色(10YR 6/3)。 ＜成形･調整＞外面：突帯貼り付け、体部の全体に周回方向の撫で調整。 内面：撫で調整(器表平滑、水の浮いた状態か)。 口縁部：口縁上端面に周回方向･接線方向の刷毛目調整。他は周回方向の撫で調整。 ＜特記＞外面の全体～口縁部付近の内面に滲み状の付着物。 ＜遺存状況＞器表遺存良
22	**346**	弥生土器 甕 (弥生/中期前葉)　1区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、細礫までを含む(径4mmまで、花崗岩起源か)。 断面：明灰黄褐色 (2.5Y 5/2)。 ＜成形･調整＞内外面：撫で調整。体部外面：刷毛目調整(縦)。 ＜特記＞内外面に吸着物･付着物。外面に煤状付着物(口縁端間で一様に付着、やや光沢をもつ)。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
22	**354**	弥生土器 甕 (弥生/前期前半)　2区 M1-9層-G7834　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂粒を顕著に含む(径1mm以下が大半)。 器表(内面)：灰黄褐色(10YR 5/2)。 ＜成形･調整＞外面：口縁端から刷毛目調整(縦、粗目)。口縁端部に刻み目。 内面：口縁部に周回方向の刷毛目調整→体部撫で調整。 ＜遺存状況＞器表遺存良
22	**355**	弥生土器 甕 (弥生/中期前葉)　2区 M1-9層-G7834　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂～細礫を顕著に顕著に含み、中礫(径7mmまで)も稀に含む。 断面：団塊状。 器表(現状)：外面でにぶい褐色(7.5YR 5/4)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦)＋内面：口縁直下に周回方向の刷毛目調整→撫で調整。→口縁部：周回方向の撫で調整(→口縁部上端面の撫で調整)。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表やや荒れ
22	**380**	弥生土器 甕 (弥生/前期)　2区 M1-9層-G8041　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂(～1mm)を含む。 器表：明褐灰色(7.5YR 7/2) ＜成形･調整＞内外面とも撫で調整。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表荒れ(外面顕著)
22	**414**	弥生土器 甕 (弥生/中期前葉)　2区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を含む(径1mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：にぶい黄褐色(10YR 7/2)。体部外面に黒斑。 ＜成形･調整＞口縁部荒れて詳細不明、撫で調整か。体部外面刷毛目調整(縦、密に施す)。 内面撫で調整。 ＜特記＞体部外面の全体に滲み状の付着物。 ＜遺存状況＞口縁部細片と、器表やや荒れ
22	**415**	弥生土器 甕 (弥生/中期中葉)　2区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を含む(径1mmまで)。 器表：灰白色(2.5Y 7/1)、灰黄色(2.5Y 6/2)部が斑状に分布。 ＜成形･調整＞外面：体部に粗い刷毛目調整(縦)、やや下った位置以下に刷毛目調整(斜)。内面～口縁部外面：周回方向の撫で調整。 ＜特記＞口縁端から外面にかけて滲み状の変化。 ＜遺存状況＞器表遺存良　口縁部径(復原)23.2cm
22	**435**	弥生土器 甕 (弥生/中期前葉)　2区 M1-9層-G7945　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、佐々列部手を含む(径4mmまで、花崗岩起源か)。 器表(内面)：にぶい黄褐色(10YR 7/2)。 ＜成形･調整＞外面：撫で調整(口縁部では周回方向)。 内面：指押さえ痕、口縁部には周回方向に連続。 ＜特記＞外面の口縁端直下に煤状付着物、それより下に滲み状の付着物。 ＜遺存状況＞口縁部細片、外面荒れ。
22	**440**	弥生土器 甕 (弥生/中期前葉)　2区 M1-9層-G7945　＜材質(胎土･焼成)＞体部：やや粒状性あり、粗砂を顕著に含む(径1mmまで、花崗岩起源か)。 器表：にぶい黄褐色(10YR 7/2)。 ＜成形･調整＞器表荒れて詳細不明、撫で調整、口縁端部では周回方向。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表荒れ
22	**442**	弥生土器 甕 (弥生/中期前葉)　2区 M1-9層-G7945　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性あり、細砂～粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：褐灰色(10YR 6/1)。 ＜成形･調整＞外面：胴部に刷毛目調整(縦、極細目)→突帯貼り付け→突帯･周辺部に周回方向の撫で調整。 内面：口縁に沿う指押さえ痕→撫で調整→口縁直下に周回方向の撫で調整(凹線状を呈す)→口縁上端面撫で調整(周回方向)。 口縁部：周回方向の撫で調整→慨嘆面に刻み目(やや厚みある工具による)。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
22	**458**	弥生土器 甕 (弥生/前期後半)　2区 M1-9層-G7953　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：砂粒を顕著に含む(大半が細砂、細砂～中礫を含む、花崗岩起源か)。 器表：灰黄褐色(10YR 4/2)。 ＜成形･調整＞内面：撫で調整。外面：撫で調整･刷毛目調整(縦方向で不整)。口縁部：周回方向の撫で調整、端部下縁に刻み目。 ＜特記＞胎土は他個体と異質。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表やや荒れ
22	**488**	弥生土器 甕 (弥生/中期前葉)　3区 M1-9層-G7911　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 器表：灰黄色(2.5Y 6/2)。 ＜成形･調整＞内外面･口縁端面とも周回方向の撫で調整。口縁部下端に接合痕が残る。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良　口縁部径(復原)24cm
22	**498**	弥生土器 甕 (弥生/前期前半)　3区 M1-9層-G7835　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 器表：にぶい黄褐色(10YR 6/3)。 ＜成形･調整＞内外面とも撫で調整。体部に指押さえ痕。 口縁部外面撫で調整、端部が上方に跳ね上がるような形状。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表やや荒れ
22	**506**	弥生土器 甕 (弥生/前期後半)　3区 M1-9層-G7835　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂～細砂を含む(径3mmまで、花崗岩起源か)。 器表：外面にぶい黄褐色(10YR 7/29)、内面･断面黒色。 ＜成形･調整＞外面：口縁端部指押さえ痕→端部直下から刷毛目調整(縦)。内面：口縁部に周回方向の撫で調整。 ＜遺存状況＞口縁部小破片、器表遺存良　後部径(復原)20.4cm
22	**516**	弥生土器 甕 (弥生/中期中葉)　3区 M1-9層-G7825　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を顕著に含む(径2mm間で)。 断面：層状。器表(内面)：灰黄褐色(10YR 5/2)。。 ＜成形･調整＞口縁部：周回方向の撫で調整。 体部：外面刷毛目調整(斜)、内面撫で調整、指押さえ痕が残る。 ＜特記＞外面には、口縁端以下体部まで煤状付着物が密に残る(一様)。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
22	**518**	弥生土器 甕 (弥生/前期後半)　3区 M1-9層-G7825　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を含む(径～2mm)。断面：層状。 器表：にぶい黄色(2.5Y 6/3)。 ＜成形･調整＞内外面：撫で調整。口縁端部には条線が残る。口縁端部外縁に刻み目(工具を押しつけたのち、傾けており、刻み目の幅が広がる。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表荒れ
22	**523**	弥生土器 壷 (弥生/中期前葉)　3区 M1-9層-G7825　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、細砂～粗砂を顕著に含む。 断面：団粒状。 器表：灰黄褐色(10YR 6/2)。 ＜成形･調整＞外面板体部に刷毛目調整(縦、粗目)。 内面：口縁部から続く刷毛目調整(斜右下)→撫で調整(斜左下)。 口縁部：上端面に刷毛目調整(接線方向)→撫で調整(上端面～外面の口縁比高部直下まで)。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良

表 4　報告遺物観察表

図	遺物番号	遺　物　記　述
22	**543**	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　3区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性顕著、細砂～粗砂を顕著に含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：にぶい黄色(2.5Y 6/3)。 ＜成形･調整＞外面：体部に刷毛目調整(縦)。 内面：口縁部から刷毛目調整(斜右下)。 口縁部：上端面～直下の外面に周回方向の撫で調整(条線は残らず、平滑面を形成)。 各稜部を丸く収める。 ＜特記＞口縁部やや下った位置以下の内面に滲み状の付着物。 ＜遺存状況＞口縁部小破片、器表やや荒れ　口縁部径(復原)29.7cm
22	**567**	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　3区 M1-9層-G7922　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：細砂～粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表(内面)：灰黄褐色(10YR 6/2)。 ＜成形･調整＞外面：口縁直下まで刷毛目調整(縦)→撫で調整→一段下った体部に刷毛目調整＋ 内面：撫で調整→口縁部直下に周回方向の撫で調整(強く押さえて凹線状を呈す)。→口縁部：周回方向の撫で調整、口縁端面に刻み目。 ＜特記＞口縁外端面以下体部の全体に滲み状の付着物。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表やや荒れ
22	**569**	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　3区 M1-9層-G7922　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂～細礫を顕著に含む(花崗岩起源か)。褐色の焼土様粒が小量混じる。 断面：団粒状。 器表：灰白色(2.5Y 7/1)、 ＜成形･調整＞器表荒れて不詳。内外面とも撫で調整か。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表荒れ
22	**570**	弥生土器 甕（弥生/前期後半）　3区 M1-9層-G7922　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂(径～2mm、花崗岩起源か)。 断面：団塊状。細孔を生じる。 器表：浅黄色(2.5Y 7/3)。 ＜成形･調整＞外面：体部指押さえ痕。 口縁部：内外面撫で調整。 ＜遺存状況＞上半部の小破片、器表遺存良　口縁部(復原)12.7cm
22	**575**	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　3区 M1-9層-G6855　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂～細礫を顕著に含む(径3mmまで、花崗岩起源か)。 器表：にぶい黄褐色(10YR 6/3)。 ＜成形･調整＞外面：口縁部撫で調整、体部刷毛目調整(縦)。内面：口縁部に周回方向の刷毛目調整痕が残る。他は撫で調整。 ＜特記＞器表全体に滲み状の付着物。
23	**205**	弥生土器 甕（弥生/前期）　3区 M1-9層-G7845　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を含む。器表：にぶい黄色(10YR 5/3)。 ＜成形･調整＞外面：縦の刷毛目調整(右下がり)→2条の圏線(丸棒状の工具による沈線9)。間に竹管押圧文。圏線より上位に周回方向の撫で調整。 ＜遺存状況＞体部細片、内面側の器表剥落、外面遺存良。
23	**225**	弥生土器 甑 弥生/中期　3区 M1-9層-G7941　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を顕著に含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：層状。 器表：外面明赤褐色(5YR 5/3)。内面･断面にぶい黄橙色(10YR 6/3)。 ＜成形･調整＞外面)：刷毛目調整(縦、下向きか)。 内面：撫で調整(平滑面は、使用の痕跡か)。外底面：撫で調整か、細かな凹凸面が残る。焼成後底部中央に焼成後の穿孔(内外面から打ち欠き)。 ＜特記＞内面･外底面に滲み状の付着物。 ＜遺存状況＞底部1/3周の破片、器表やや荒れ。　底部径8.1cm
23	**293**	弥生土器　1区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂～細礫を含み脆い。 断面：団粒状、層状の部分あり。 器表：にぶい黄橙色(10YR 6/3)、斑状ににぶい橙色(7.5YR 6/4)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦、やや右下)→撫で調整。 内面：撫で調整。 口縁部：粘土を乗せて、肥厚させる→上･外方に面形成、周回方向の撫で調整→外端面の下縁に刻み目。 ＜遺存状況＞口縁部細片
23	**301**	弥生土器 蓋（弥生/中期）　1区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：にぶい橙色(7.5YR 7/4)、斑状に橙色(2.5YR 6/6)部、赤化か。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦)→底部付近に周回方向の撫で調整(軽度)、それより上位は周回方向の刷毛目調整(部分的に残る) 。内面：撫で調整か。 頂部(把手部)：全体に緩く窪む。接線方向の篦磨き調整(若しくはささら状の工具による撫で調整)。 ＜特記＞甕底部と区別が難しいが、頂部(底部)の調整から、蓋とした。 内面の全体に煤状付着物が残る。 ＜遺存状況＞頂部(全周する)　把手部径8cm
23	**307**	弥生土器 甕（弥生/前期）　1区 M1-9層-G8911　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を顕著に含む。 断面：団粒状。 外面：部分的に黒斑。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦、粗目、上向きか)。内面･外底面：撫で調整。 ＜特記＞内面部分的に煤状付着物。 ＜遺存状況＞底部(全周遺存)　底部径7.8cm
23	**309**	弥生土器 蓋（弥生/前期）　1区 M1-9層-G8931　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：層状。 器表：灰白色(10YR 7/1)。 ＜成形･調整＞外面：接線方向の刷毛目調整、縁部周辺に周回方向の撫で調整。 内面：部分的に刷毛目調整、全体に撫で調整。 ＜特記＞内外面に滲み状の付着物。口縁を離れた内面に輪状に煤状付着物(厚く付着)。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
23	**315**	弥生土器 甕（弥生/前期）　1区 M1-9層-G8813　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、細礫までを含む(径3mm、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表(外面)：灰白色(8/2)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦)。内面･外底面：撫で調整。 ＜特記＞内底面に滲み状の付着物、胴部には煤状付着物が厚く残る。付着物は器面に吸着している世に見え、亀裂に浸入している状態が観察される。 ＜遺存状況＞底部1/4周の破片　底部径9.3cm
23	**316**	弥生土器 壷（弥生/中期前葉）　1区 M1-9層-G8813　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を顕著に含む。 断面：層状。 器表(外面)：暗灰黄色(2.5Y 4/2)。 ＜成形･調整＞外面：全体に刷毛目調整(縦、上向きか)。 内面：器表は剥落したものか、全体に痘痕状。 外底面：円盤状の粘土を当てて塞ぎ、成形。中央は凹面。全体に撫で調整。 ＜遺存状況＞底部１/２周の破片
23	**317**	弥生土器 壷（弥生/中期前葉）　1区 M1-9層-G8813　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を含む(粒径が1mm前後に揃う、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：灰白色(2.5Y 7/1)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦、密に施工)、底部周縁に圏線(丸棒状の工具による浅い沈線)。 内面：指押さえ痕→撫で調整。 外底面：中央に凹部(指押さえ痕→周回方向の撫で調整)。周縁部には不整な凹凸(製作時の圧痕か)。 ＜特記＞内面に滲み状の付着物。 ＜遺存状況＞底部(部分欠)、器表遺存良　底部径(復原)8.1cm
23	**320**	弥生土器 甕（弥生/前期）　1区 M1-9層-G7855　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表(外底面)：灰黄褐色(10YR 5/2)。 ＜成形･調整＞外面：篦削り調整(縦、下方)→篦磨き調整(縦)。内面：撫で調整。平滑部あり、使用によるものか。 外底面：撫で調整、縁辺部に粗面部が残る。 ＜特記＞内外面とも煤状の付着物が残る。 ＜遺存状況＞底部1/3周の破片　底部径(復原)7cm
23	**322**	弥生土器 蓋（弥生/中期）　1区 M1-9層-G7833　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を顕著に含む(径1mm前後)。 断面：団粒状。 器表対鈍い褐色(7.5YR 5/4)。 ＜成形･調整＞外面：放射方向の刷毛目調整(指押さえによる調整後か、凹凸面が残る)。 内面：撫で調整。 ＜特記＞口縁に沿う内外面に滲み状の付着物。口縁付近の内面に鳶状に煤状付着物。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良　口縁部径(復原)19.9cm
23	**327**	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　1区 M1-9層-G7853　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を顕著に含む(1mm以下が大半)。 断面：団粒状。 器表(内面)：にぶい黄橙色(10YR 7/3)。 ＜成形･調整＞外面撫で調整＋内面指押さえ痕･撫で調整→口縁部周回方向の撫で調整→内面口縁部周辺に周回方向の撫で調整。 ＜特記＞口縁端部以下の外面に煤状の付着物厚く残る。 ＜遺存状況＞口縁部細片、突帯剥落か
23	**342**	弥生土器 甕（弥生）　1区 M1-9層-G8834　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂(径～1mm)を顕著に含む。 器表：灰黄褐色(10YR 5/3)。 ＜成形･調整＞口縁部：内外面とも周回方向の撫で調整、口縁端面には刷毛目調整状の擦痕が周回方向に残る。 体部は外面：刷毛目調整→周回方向の撫で調整。内面：周回方向の篦磨き調整(短い単位)。 ＜特記＞口縁直下から外面に煤状の付着物。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
23	**347**	弥生土器 器台（弥生）　1区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か、焼土様の褐色粒子がやや顕著)。 断面：団粒状。 器表：橙色(7.5YR 7/6)で他とはやや異なる。 ＜成形･調整＞内外面とも撫で調整。 外面には指押さえ痕が残る。内面に縦方向の襞部分があり、粘土板の接合痕か。 ＜特記＞高坏等の器形が考えられるが、調整が粗い。 ＜遺存状況＞脚部細片、器表やや荒れ
23	**350**	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　1区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を含む(径1mmまで、花崗岩起源か、雲母やや顕著。褐色粒子が混じる。 器表：にぶい黄褐色(10YR 7/2)。 ＜成形･調整＞体部：外面刷毛目調整(縦)、内面周回方向の撫で調整→口縁部：周回方向の撫で調整→口縁端下縁部に刻み目(幅広)。 ＜遺存状況＞口縁部小破片、器表遺存良　口縁部径(復原)21.6cm
23	**351**	弥生土器 甕（弥生/中期）　1区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：細砂～粗砂を顕著に含む。 断面：団粒状。 器表(外面)：にぶい橙色(10YR 6/3)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦)。内面：荒れて調整不詳。 外底面：中央がが一段窪み、胎土の撓みが残る。 ＜遺存状況＞底部1/4周の破片、器表荒れ　底部径(復原)7.1cm
23	**352**	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　1区 M1-9層-G7834　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を顕著に含む(花崗岩起源か)。 断面：層状。 器表：灰黄褐色(10YR 5/2)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦、細目、短い単位で繰り返す。上方へ進行か)→底部外縁部に周回方向の撫で調整。 内面：内底面に指押さえ痕。 外底面：中央に凹部、指押さえ痕、撫で調整。周縁部には粗砂付着、圧痕が残る(地面に据えた痕跡か)。 ＜特記＞内面底面よりやや高い位置に煤状の付着物、輪状に厚く残る。 ＜遺存状況＞底部全周遺存　底部径9.9cm

図	遺物番号	遺　物　記　述
23	353	弥生土器 甕（弥生/中期中葉）　2区 M1-9層-G7834　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を顕著に含む(径2mmまで、1mm前後に集中、花崗岩起源か)。 断面：団粒状、口縁部層状。 器表：にぶい橙色(7.5YR 7/3)、芯部は黒化(黄灰色 2.5Y 5/1)。器表の色調は、被熱したような印象(内外面とも)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(斜、粗目)＋撫で調整、内面：周回方向の刷毛目調整(部分的に残る)→撫で調整。→口縁部：外面撫で調整(器表荒れて不詳)＋内面口縁部直下に周回方向の凹面(撫で調整か)→口縁端面に刻み目(幅広)。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表やや荒れ
23	356	弥生土器 甕（弥生/前期）　2区 M1-9層-G7834　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂～細礫を含む(径3mmまで、花崗岩起源か)。 断面：層状。 器表：灰黄色(2.5Y 7/2)、半ばは黒斑。 ＜成形･調整＞内外面･外底面：撫で調整。 内底面に指押え痕。 ＜遺存状況＞底部1/3周を欠き、器表荒れ　底部径7.2cm
23	368	弥生土器 甕（弥生/前期）　2区 M1-9層-G7933　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、細礫までを含む(径4mmまで、花崗岩起源と思われるものの他、火山ガラス･角閃石とみられる細粒が見える)。 断面：団粒状。 器表(外面)：鈍い黄橙色(10YR 6/3)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦)→撫で調整。内面：撫で調整。 外底面：撫で調整(接線方向、帯状の凹面を形成)。 ＜特記＞内面･外底面に滲み状の付着物。内面は特に濃密。内底面は暗く。 ＜遺存状況＞底部1/2周の破片　底部径8.7cm
23	371	弥生土器 碗（弥生）　2区 M1-9層-G8913　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性あり、細砂～粗砂を含む(径2mm程、花崗岩起源か、ほかに火山ガラスかとみえる微細な砂粒を含む)。 断面：団粒状。器表：灰黄褐色(10YR 5/2)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整→周回方向の撫で調整。 内面：撫で調整→口縁付近では周回方向の篦磨き調整(条線が残るが、光沢をもつ)。 口縁部：周回方向の撫で調整、端部を丸く整形。 ＜特記＞器形不詳。 口縁端に続く内外面に口縁に沿って帯状に滲み状の付着物。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表やや荒れ
23	385	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　2区 M1-9層-G8041　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、細砂～粗砂を含む(径3mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：明黄褐色(10YR 6/4)。外面：黒褐色(10YR 3/2)。 ＜成形･調整＞器表荒れて不詳、内外面とも撫で調整か。 ＜特記＞内外面の下部に付着物、外面は特に顕著。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表荒れ
23	388	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　2区 M1-9層-G8041　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を含む(径1mm前後が大半、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：外面灰白色(8/2)、内面黒褐色(7.5YR 5/6)、断面では明赤褐色(5YR 5/6)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦)。 内面：指押さえ痕。 外底面：撫で調整、外縁部→中央凹部。 ＜遺存状況＞底部部分欠、器表やや荒れ　底部径7.1cm
23	399	弥生土器 甕（弥生/中期中葉）　2区 M1-9層-G7935　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性あり、粗砂を僅かに含む(径1mmほど、花崗岩起源か、褐色の焼土様粒も含む)。 断面：団塊状。 器表：灰黄色(2.5Y 7/2)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦、部分的に残る)→撫出調整(縦方向か)。 内面：撫で調整(平滑で、篦磨き調整調整とすべきか)。内底面(凹部内面)：指押さえ痕→撫で調整。 ＜遺存状況＞底部小破片、器表荒れ　底部径(復原)8.2cm
23	405	弥生土器 蓋（弥生/中期前葉）　2区 M1-9層-G7944　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂～細礫を顕著に含む(径3mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：にぶい黄橙色(2.5YR 6/3)。 ＜成形･調整＞外面：指押さえ痕。 内面(底面)：指押さえ痕(顕著な凹凸を残す)。 外底面：撫で調整(砂粒の移動痕)。 ＜遺存状況＞底部全周の破片　底部径4.8cm
23	410	弥生土器 鉢（弥生/前期前半）　2区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂･細礫を含む(～4mm)。断面：層状。 器表：外面にぶい黄橙色(10YR 6/3)、内面黒色(燻し状)。 ＜成形･調整＞内外面とも篦磨き調整。外面では周回方向、部分的に縦方向に残る。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
23	412	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　2区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粒状性あり、粗砂を含む(径1mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：にぶい黄橙色(10YR 6/3)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦、密に施工)＋内面：指押さえ痕(斜)→撫で調整。→口縁部内外面に周回方向の撫で調整。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
23	447	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　2区 M1-9層-G7945　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、細砂～粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団粒状(層状部あり)。 ＜成形･調整＞外面：底部付近に指押さえ→刷毛目調整(縦、やや右へ傾斜)。 内面：底面に指押さえ痕(部分的)のほかは撫で調整。 外底面：中央に凹部、撫で調整か、平滑で若干光沢。外周部撫で調整、他例のような粗面の分布なし。 ＜特記＞外底面相当部の調整が丁寧であり、天地逆として、蓋とも考えられる。 ＜遺存状況＞底部1/4周の破片、体部の器表特に荒れ　底部径(復原)6.6cm
23	453	弥生土器 甕（弥生/前期後半）　2区 M1-9層-G8914　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を顕著に含む。 断面：層状、褐灰色(10YR 4/1)。器表：にぶい橙色(5YR 6/4)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦)→体部に周回方向の撫で調整。内面：撫で調整(周回方向か)。後円部：周回方向の撫で調整、状端面は周回方向の刷毛目調整か。 ＜特記＞内外面に滲み状の付着物、外面口縁端以下に煤状付着物。 ＜遺存状況＞底部細片
23	478	弥生土器 甕（弥生/中期中葉）　3区 M1-9層-G7815　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を含む(径1mmまで。断面：団粒状。器表：にぶい橙色(7z5YR 6/4)。 ＜成形･調整＞口縁部(内外面･端面)：周回方向の撫で調整。 体部の外面刷毛目調整(縦)、内面撫で調整、部分的に周回方向の撫で調整。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表やや荒れ
23	479	弥生土器 甕（弥生/中期中葉）　3区 M1-9層-G7815　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、細砂～粗砂を含む(径1mm)、細砂の分量大。 断面：層状、細孔を生じる。 器表：黒褐色(10YR 3/2)。 ＜成形･調整＞内面：周回方向の刷毛目調整→撫で調整→口縁部：周回方向の撫で調整：外面：刷毛目調整(斜右上)連続。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
23	481	弥生土器 甕（弥生/前期後半）　3区 M1-9層-G7824　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を顕著に含む(径2mmまで、花崗岩起源と見えるが、僅かに角閃石などが見える)。 断面：団粒状。 器表：灰黄色(2.5Y 6/2)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦)。 内面(底面)：撫で調整。外底面：中央部僅かに凹面、全体に撫で調整。 ＜特記＞内底面に滲み状の付着物。 ＜遺存状況＞底部1/2周の破片、器表やや荒れ　底部径(復原)7.2cm
23	483	弥生土器 甕（弥生/前期後半）　3区 M1-9層-G7824　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を含む(径2mmまで)。断面：団粒状。器表(外面)：にぶい赤褐色(5YR 5/4)、内面黒化、深部は灰色味。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦、下方向か)。 内面：撫で調整(器表粗面)。 外底面：撫で調整、粗面を残す。 ＜遺存状況＞底部1/3周の破片　底部径7.6cm
23	519	弥生土器 甕（弥生/中期中葉）　3区 M1-9層-G7825　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を含む(径2mmまで)。 断面：団粒状。 ＜成形･調整＞外面刷毛目調整(縦)＋内面撫で調整(砂粒が浮き、やや粗目)→口縁部周回方向の撫で調整。 口縁部上端面では接合部を境に対部側はやや粗目(内面と同様)、貼付部は滑らかな面で条線が残る。 ＜特記＞口縁部以下の外面に煤状の付着物が斑に残る。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
23	522	弥生土器 壷（弥生/中期中葉）　3区 M1-9層-G7825　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を顕著に含む(径1mmまで、花崗岩起源か、雲母を顕著に含む)。 断面：団粒状。 器表(内面)：にぶい黄褐色(10YR 7/2)。 ＜成形･調整＞口縁端部上下面に周回方向の撫で調整。 外面：体部に刷毛目調整(縦)→口縁端部周回方向の撫で調整、やや下った位置に断面三角形突帯貼り付け。 内面：周回方向の刷毛目調整→撫で調整)。 ＜特記＞口縁端面下面以下の外面に滲み状の付着物。一見火襷状を呈する部分あり。この部分は灰色(5Y 5/1)。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表やや荒れ
23	536	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　3区 M1-9層-G7921　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：細砂～粗砂を顕著に含む(花崗岩起源か)。断面：層状、深部黄灰色 2.5Y 5/1)。 器表(内面)：灰黄色(2･5Y 7/2)。 ＜成形･調整＞外面刷毛目調整(縦)→撫で調整＋内面周回方向の撫で調整、→口縁部周回方向の撫で調整。 ＜特記＞口縁部状端面縁部～体部に滲み状･煤状の付着物。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
23	544	弥生土器 蓋（弥生/中期前葉）　3区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を含む(径1mm前後が主、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：灰黄色(2.5Y 6/2)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦、密に施工、底部間で残る。 内面：撫で調整(爪形の圧痕あり、板状工具によるものか)。 外底面：中央に凹部、指押さえ痕→撫で調整(中央部～周縁部まで同様)。周縁部に加重による凹凸面。 ＜特記＞内面に滲み状の付着物。 ＜遺存状況＞頂部(全周する)破片、器表遺存良　底部径(復原)6cm
23	549	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　3区 M1-9層-G7941　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を顕著に含む(花崗岩起源か)、他に褐色焼土様粒も含む。 断面：団粒状。 器表：灰黄色(2.5Y 6/2)。 ＜成形･調整＞内面：周回方向の刷毛目調整→撫で調整＋外面：刷毛目調整(斜右下)。→口縁部：周回方向の撫で調整。 ＜遺存状況＞口縁部小破片、器表やや荒れ　口縁部径(復原)20.8cm
23	554	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　3区 M1-9層-G7931　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂～細礫を顕著に含む(径5mmまで、花崗岩起源か、細礫は褐色焼土様)。 断面：団粒状。 器表：灰黄褐色(10YR 6/2)、全体がくすんだような状態。 ＜成形･調整＞体部：外面刷毛目調整(縦、密に方向を揃えて、単位が見えない)。→口縁部～直下の体部外面撫で調整、口縁端部では周回方向。 ＜遺存状況＞口縁部小破片、器表遺存良

表 6 報告遺物観察表

図	遺物番号	遺　物　記　述
23	**555**	弥生土器 甕（弥生/中期中葉）　3区 M1-9層-G7931　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か) 断面：団粒状で多数の細孔を生じる。 器表：灰黄色(2.5Y 6/2)、くすんだような状態。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦、向きを揃える)→体部に突帯貼付(断面三角形)･周回方向の撫で調整。 内面：周回方向の刷毛目調整→撫で調整。 ＜遺存状況＞口縁部細片、器表遺存良
23	**560**	弥生土器 甕（弥生/前期前半）　3区 M1-9層-G7931　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源か、褐色焼土様粒を含む)。 断面：層状。 器表(外面)：にぶい赤褐色(5YR ２/３)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦、短い単位)。 内明：撫で調整。 底面：体部整形後、粘土板で塞ぐ。相互に粘土を引き延ばし整形したものか。 ＜特記＞内底面やや上がった位置以上の器表に染み城の付着物。 ＜遺存状況＞底部１/４周の破片　底部径(復原)9.4cm
23	**561**	弥生土器 甕（弥生/前期前半）　3区 M1-9層-G7931　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂～細礫を含む(径3mmまで、花崗岩起源か、褐色の焼土様粒を含む)。 断面：団粒状。 器表：(外面)にぶい橙色(7.6YR 7/4)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦)→撫で調整。内面：撫で調整。外底面：撫で調整、平滑で、僅かに上げ底状。 ＜特記＞内面に滲み状付着物、斑状に煤状の付着物。 ＜遺存状況＞底部1/3周の破片　底部径8.8cm
23	**562**	弥生土器 甕（弥生/前期前半）　3区 M1-9層-G7931　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を含む。 断面：団粒状･層状。器表：にぶい黄褐色(10YR 7/2)、断面にぶい橙色(2.5YR 6/4)。 ＜成形･調整＞外面)：刷毛目調整(縦、下方向か)。内面：撫で調整(砂粒が浮いて残る)。 外底面：撫で調整(粗く、凹凸面が残る)。 ＜特記＞内面赤化か。 ＜遺存状況＞底部1/3周の破片、器表やや荒れ底部径(復原)8.4cm
23	**573**	弥生土器 壷（弥生/前期後半）　3区 M1-9層-G7922　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性あり、粗砂～細礫を含む(径4mmまで、花崗岩起源か)。 断面：団粒状。 器表：灰黄色(2.5Y 7/2)。 ＜成形･調整＞内外面：底面近くに指押さえ痕、撫で調整。 ＜遺存状況＞底部破片、器表遺存良
23	**574**	弥生土器 甕（弥生/中期前葉）　3区 M1-9層-G7922　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：粗砂を顕著に含む(径2mmまで、花崗岩起源か)。断面：団粒状。 器表：橙色(5YR 6/6)。 ＜成形･調整＞外面：刷毛目調整(縦、密に施工)。内面：欠失して調整不明。 外底面：中央に凹部、撫で調整、外縁部は撫で調整(強く擦る部分、痘痕状の未調整部分あり。短い凹線状の部分が残る(工具の擦過痕か)。 ＜遺存状況＞底部内面欠　底部径7cm
24	**28**	石器/利器 石鏃/剥片鏃（縄文時代）　1区 M1-9層-G7842　＜材質(胎土･焼成)＞石材：黒曜石(濃い層状斑、強いガラス状光沢) ＜成形･調整＞素材は木葉形の縦長剥片か。素材打面を欠き取り、凹基部成形(縁部両面側からの加工)。 ＜遺存状況＞完存　長3.3cm / 巾2.2cm / 厚3.3cm
24	**64**	土製品 投弾　2区 M1-9層　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、細砂～粗砂を含む。 器表：褐灰色(10YR 3/1)、大部分は黒斑部)。 ＜成形･調整＞器表は撫で調整、平滑でやや光沢をもつ。 ＜遺存状況＞半ばを欠く　長(現状)2.8cm / 径2.2cm
24	**111**	土製品 紡錘車　3区 M1-9層-G7931　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：やや粒状性、細砂～粗砂を含む。 断面：団粒状。 器表：黒褐色(2･5 Y3/1)。 ＜成形･調整＞手捏ね成形、器表に指押さえ痕(帯状に残る)。 ＜遺存状況＞一部を欠く　径3.1cm / 厚1.5cm
24	**113**	石器/器具 紡錘車（弥生）　3区 M1-9層-G7825　＜材質(胎土･焼成)＞石材：片岩 ＜成形･調整＞全面を平滑に研磨。 ＜遺存状況＞半ばを欠く　径4.7cm / 厚0.7cm / 孔の径8mm。
24	**202**	石器/器具 紡錘車（弥生/前期）　3区 M1-9層-G7815　＜材質(胎土･焼成)＞石材：滑石 ＜成形･調整＞全面を平滑に研磨。両方向から穿孔。孔の上下面付近に螺旋状の工具痕。穿孔工具は先端半球状か。 ＜遺存状況＞半ばを欠く　径3.9cm / 厚0.9cm / 孔の径6mm。
24	**203**	石器/器具 紡錘車（弥生）　3区 M1-9層-G7824　＜材質(胎土･焼成)＞石材：片岩 ＜成形･調整＞上下面は石材節理により厚薄あり。側面は平滑に研磨。 ＜遺存状況＞半ばを欠き、全体に磨滅　径5.6cm / 厚0.6cm
24	**208**	土製品/器具 紡錘車（弥生）　2区 M1-9層-G7942　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密。細砂を小量含む。 器表：にぶい灰褐色(10YR 5/3)。半ばは黒斑部。 ＜成形･調整＞器表：撫で調整→篦磨き調整か。部分的に条線状の光沢部(黒斑部に顕著) 。 全体に反りがある。 ＜遺存状況＞完存　径3.7cm / 厚1.2cm
24	**220**	土製品 紡錘車(未成品)（弥生/前期）　1区 M1-9層-G8941　＜材質(胎土･焼成)＞胎土：緻密、粗砂を含む。 断面：団粒状。 ＜成形･調整＞壷胴部破片を、平面円形に打ち欠き整形。土器の内面側の中央に穿孔(小径、未貫通)。土器の外面、撫で調整→圏線･羽状文(丸棒状の工具による沈線)。内面、撫で調整。 ＜遺存状況＞完存　径4.6cm / 厚0.7cm
24	**229**	石器/利器 石斧(未成品)　3区 M1-9層-G7825　＜材質(胎土･焼成)＞石材：ホルンフェルスか ＜成形･調整＞頭部側の一部に研磨痕。他は粗い剥離面で構成。縁部の両面には小剥離痕が残る。 ＜遺存状況＞東部の一部　長(現状)7.8cm / 幅4.1cm / 厚7.8cm
24	**249**	石器/利器 周縁部に加工のある石器 縦形（弥生）　3区 M1-9層-G7921　＜材質(胎土･焼成)＞石材：玄武岩（縦長剥片） ＜成形･調整＞縦長剥片を素材とし、素材頭部･末端部に小剥離痕連続、縁部に剥離痕散在。 ＜特記＞縁部が部分的に磨り潰し状を呈するのは、風化に依るものか。 ＜遺存状況＞完存　長13.2cm / 幅5.1cm / 厚13.2cm
24	**252**	石器製作残滓 石核　3区 M1-9層-G7921　＜材質(胎土･焼成)＞石材：黒曜石(漆黒、角礫、ガラス状光沢) ＜成形･調整＞剥離作業面を転移し、幅広扇状の剥片剥離。　高2.5cm / 幅3cm / 長2.5cm
24	**253**	石器製作残滓 石核　3区 M1-9層-G7921　＜材質(胎土･焼成)＞石材：黒曜石(濃い層状斑があり、ガラス状光沢を呈す。パミス粒を含む。) ＜成形･調整＞剥片を利用し、横断方向に作業面(最終)1面を残すものか。　高2.4cm / 巾3.1cm / 長2.4cm
24	**268**	石器/利器 石斧/磨製石斧 太型蛤歯石斧（弥生）　1区 M1-9層-G8815　＜材質(胎土･焼成)＞石材：玄武岩(細粒) ＜成形･調整＞刃部への衝撃により剥離(剥片状) ＜遺存状況＞刃部断片　長(現状)7.8cm / 幅5.7cm / 厚7.8cm
24	**279**	石器製作残滓 石器未成品か　3区 M1-7層-G7913　＜材質(胎土･焼成)＞石材：黒曜石(剥片、層状斑濃、ガラス状光沢) ＜成形･調整＞剥片の両側に剥離を加える。　長4cm / 幅2.2cm / 厚4cm
24	**292**	石器製作残滓 石核　2区 M1-9層-G7952　＜材質(胎土･焼成)＞石材：黒曜石(漆黒、角礫,強ガラス状光沢) ＜成形･調整＞礫面を打面とし、横長剥片(三角形)を剥離。　高2.7cm / 巾3.5cm / 長2.7cm
25	**54**	石器/器具 砥石　2区 M1-9層-G7834　＜材質(胎土･焼成)＞石材：砂岩 ＜成形･調整＞角柱状に砥面形成。各面の中央は楕円形の窪みが連続して溝状となる。 ＜遺存状況＞軟質。器表の一部剥落、一端欠　長(現状)4.9cm / 幅5.5cm
25	**228**	石器/器具 砥石　3区 M1-9層-G7825　＜材質(胎土･焼成)＞石材：砂岩か(石斧転用) ＜成形･調整＞石斧の片面を砥面(平坦)として利用。条線が石器軸に対して斜め方向に残る。 ＜遺存状況＞完存　長10.6cm / 幅6.6cm / 厚10.6cm
25	**248**	石器/器具 敲石 長形　3区 M1-9層-G7921　＜材質(胎土･焼成)＞石材：不明(火山岩か、亜円礫) ＜成形･調整＞礫の稜部、端部にうち潰し状の痕跡。状端部を欠く。 ＜遺存状況＞完存　長14.7cm / 幅3.2cm / 厚14.7cm
25	**254**	石器製作残滓 石核　3区 M1-9層-G7931　＜材質(胎土･焼成)＞石材：安山岩(分割材か) ＜成形･調整＞打面は剥離面。打面調整を行う(剥離作業面打点除去)。　高5.1cm / 幅5cm / 長5.1cm
25	**258**	石器/器具 砥石 角柱形　3区 M1-9層-G7815　＜材質(胎土･焼成)＞石材：砂岩(細粒) ＜成形･調整＞断面長方形、4面を砥面とする。各面は長軸方向に、僅かに横断方向にも撓曲する(小形で曲面のある対象物に使用したものか) 。 ＜遺存状況＞半ばを欠く長(現状)2.6cm / 幅(最大)1.7cm / 厚(最大)2.6cm / 等局部の幅15mm、厚さ8mm。
25	**265**	石器/器具 砥石 角柱形　3区 M1-9層-G7911　＜材質(胎土･焼成)＞石材：砂岩(亜角礫) ＜成形･調整＞上下面は割れ面(下面に敲打痕様の凹凸が残る)。両側面を砥面とする。 ＜特記＞砥面とする面は粗く、自然礫の可能性が残る。 ＜遺存状況＞半ばを欠く長（現状）6.6cm / 幅5.1cm / 厚6.6cm
25	**288**	石器/器具 砥石/手持ち砥石 多面形　2区 M1-9層-G7944　＜材質(胎土･焼成)＞石材：砂岩(円礫) ＜成形･調整＞素材の片側に複数の砥面形成、不整な多面体状を呈す。凹面を成す砥面があり、小径の対象物を加工したものか。 ＜特記＞被熱か、割れ面赤化。 ＜遺存状況＞片側を欠く　長(現状)7.1cm / 幅6.9cm / 厚7.1cm
25	**290**	石器/器具 石皿　2区 M1-9層-G7945　＜材質(胎土･焼成)＞石材：砂岩(軟質) ＜成形･調整＞板状の上下面に擦り面(凹面を形成)。 ＜遺存状況＞部分(細片化)　長(現状)5.5cm / 幅6.2cm / 厚5.5cm / 凹面部厚13mm。
26	**95**	石器/器具 未分類 有孔製品　3区 M1-9層-G7911　＜材質(胎土･焼成)＞石材：滑石〔偏平な円礫〕 ＜成形･調整＞石材の中央部に両面からの敲打による穿孔（孔の径10mm）。 ＜遺存状況＞半ばを欠く　長(現状)4.1cm / 幅5.6cm / 厚4.1cm
26	**99**	石器/器具 穿孔具（弥生/前期）　3区 M1-9層-G7941　＜材質(胎土･焼成)＞石材：砂岩(軟質) ＜成形･調整＞全面を敲打成形、穿孔部とする。一端は、漏斗状となり（器面平滑、断面楕円形状、回転による形成か）、体部との境界は段を成す。 ＜遺存状況＞部分欠　長10.2cm / 幅5.8cm / 厚10.2cm
26	**227**	石器製作残滓 剥片　3区 M1-9層-G7825　＜材質(胎土･焼成)＞石材：頁岩か(割材) ＜成形･調整＞片側は節理面、末端は折れ。打面は礫面。

報告遺物観察表　表7

図	遺物番号	遺　物　記　述
26	**264**	石器/器具 台石　　2区 M1-9層-G7944　　＜材質(胎土･焼成)＞石材：砂岩(分割材か) ＜成形･調整＞上面に複数の凹面、側面は複数の割れ面により多面体状。 ＜遺存状況＞断片　長(現状)5.3cm / 幅(最大)5cm / 厚(最大)5.3cm
26	**272**	石器/利器 周縁部に加工のある石器。　　1区 M1-9層-G7843　　＜材質(胎土･焼成)＞石材：玄武岩(粗面、風化程度弱。縦長剥片) ＜成形･調整＞素材縦長剥片の片側縁の表裏に小剥離痕連続。縁部は打ち潰し状を呈する。素材打面は礫面。　長7.8cm / 幅6.6cm / 厚7.8cm
27	**2**	木器/農具 三又鍬 (弥生)　　1区 M1-9層-G8922　　＜材質(胎土･焼成)＞木材：カシか。 ＜成形･調整＞器表の遺存不良で、調整の詳細は不明。刃部先端部は研磨(あるいは磨耗)し、滑らかな丸みをもつ。柄孔は楕円形、刃部と柄は直角よりやや小さな角度で交差。 ＜遺存状況＞片側を欠く、器表の遺存不良　長25.1cm / 幅(現状)14.1cm / 厚(膨隆部)2.5cm / 厚(身部)2.0cm。
27	**17**	木材 板材　　1区 M1-9層-G8921　　＜材質(胎土･焼成)＞木材：カシ類か (みかん割り材) ＜成形･調整＞薄い割り材。一端が斜めに削げているが、意図したものか否かは不明。割取り後の整形は不明。 ＜遺存状況＞部分欠　長(現状)66.2cm / 幅14.8cm / 厚66.2cm
27	**18**	木器/部材 建築部材か　　1区 M1-9層-G8931　　＜材質(胎土･焼成)＞木材：カシ類か (みかん割り材) ＜成形･調整＞薄い割り材。割り取り後の整形は不明。 ＜特記＞若しくは、板材。 ＜遺存状況＞ほぼ完存　長73.5cm / 幅11cm / 厚73.5cm
27	**31**	木器 柄　　1区 M1-9層-G8845　　＜材質(胎土･焼成)＞木材：カシ類か(脇材) ＜成形･調整＞断面楕円形の棒状に整形、全面を研削か。 ＜特記＞柄580と同一個体か。 ＜遺存状況＞断片　長 (R580と併せて) 13.2cm / 長径3.5cm / 短径13.2cm / 長さは、2点を足した数値。
27	**46**	木器/部材 建築部材　　1区 M1-9層-G8845　　＜材質(胎土･焼成)＞木材：カシ類か(みかん割り材) ＜成形･調整＞割り材を板状に整形、両端部と、両側辺をを面取り。両面を削り厚さを調整している(亀甲状の削り面が残る。 ＜特記＞若しくは板材 ＜遺存状況＞部分欠　長115cm / 幅14.1cm / 厚115cm
27	**48**	木器/部材 建築部材か　　1区 M1-9層-G8813　　＜材質(胎土･焼成)＞木材：カシ類か(みかん割り材) ＜成形･調整＞割り材の両側辺を面取り(稜部も面をとっているように見える)。 ＜特記＞若しくは、板材。 ＜遺存状況＞両端欠　長 (現状) 35.7cm / 幅10.5cm / 厚35.7cm
27	**50**	木器/部材 柄　　1区 M1-9層　　＜材質(胎土･焼成)＞木材：カシ類か(脇材) ＜成形･調整＞長軸方向の切削により端部(柄尻)側に太く、断面楕円形に整形。端部(柄尻)は、切り込みの後折り取ったものか(中央部に折れ面残置)。 ＜遺存状況＞柄尻部　長(現状)22.8cm / 長径4.5cm / 短径22.8cm / 太さは断面部分。
27	**106**	木器/器具 尖頭器　　3区 M1-9層-G7921　　＜材質(胎土･焼成)＞木材：器種不明(丸木材) ＜成形･調整＞細かな削りにより一端に断面円形の尖頭部を作出、基部側は、現状長い割れ面となっている(剥ぎ取りか否かは不明)。 ＜特記＞若しくは杭。 ＜遺存状況＞前後端を欠く　長(現状)63.5cm / 径3.3cm
27	**579**	木器 柄か　　1区 M1-9層-G8922　　＜材質(胎土･焼成)＞木材：カシか(芯持ち材) ＜成形･調整＞断面楕円形に整形。 ＜遺存状況＞断片　長 (現状) 25.4cm / 長径3.5cm / 短径25.4cm
27	**580**	木器 柄　　1区 M1-9層-G8835　　＜材質(胎土･焼成)＞材木：カシか(脇材) ＜成形･調整＞棒状、断面楕円形に整形、平滑に研削。端部(柄尻)は丸く収める。 ＜特記＞柄31と同一個体か。 ＜遺存状況＞端部断片(柄尻部)　長 (現状) 5.4cm / 長径3.7cm / 短径5.4cm
30	**80**	木器/杭 丸木杭　　2区 M2　　＜材質(胎土･焼成)＞木材：樹種不明(丸木材,低木の樹幹か) ＜成形･調整＞先端部に尖端を形成しない。先端部潰状。　長(現状)15.4cm / 径2.1cm
30	**81**	木器/杭 丸木杭　　2区 M2　　＜材質(胎土･焼成)＞木材：樹種不明(丸木材、樹皮遺存せず) ＜成形･調整＞先端を形成しない(平坦な面となっている)。 ＜遺存状況＞頭部欠　長(現状)13.7cm / 径2.6cm
30	**82**	木器/杭 丸木杭　　2区 M2　　＜材質(胎土･焼成)＞木材：樹種不明(カシ類か、丸木材、枝部の利用か) ＜成形･調整＞先端部に尖端を形成しない。 ＜遺存状況＞頭部欠　長(現状)15.9cm / 径1.8cm
30	**83**	木器/杭 丸木杭　　2区 M2　　＜材質(胎土･焼成)＞木材：樹種不明(丸木材) ＜成形･調整＞先端部は切削面のままで尖端を形成せず、亀裂を生じている。 ＜遺存状況＞頭部欠　長(現状)9.9cm / 径2cm

報告遺物索引 (遺物番号順)　表9

遺物番号	報告図	遺物番号	報告図	遺物番号	報告図	遺物番号	報告図	遺物番号	報告図
2	27	216	21	297	22	355	22	493	20
16	21	217	21	300	21	356	23	494	20
17	27	218	21	301	23	368	23	498	22
18	27	219	21	307	23	371	23	506	22
28	24	220	24	308	21	373	21	510	21
31	27	221	21	309	23	380	22	516	22
46	27	222	21	313	21	381	21	518	22
48	27	223	21	315	23	385	23	519	23
50	27	224	21	316	23	388	23	521	21
54	25	225	23	317	23	399	23	522	23
64	24	226	21	318	22	400	21	523	22
80	30	227	26	320	23	405	23	536	23
81	30	228	25	321	21	410	23	540	21
82	30	229	24	322	23	412	23	543	22
83	30	230	21	324	22	414	22	544	23
95	26	231	21	326	22	415	22	549	23
99	26	248	25	327	23	435	22	553	21
515	22	249	24	331	22	440	22	554	23
106	27	252	24	332	22	442	22	555	23
111	24	253	24	333	22	447	23	559	21
113	24	254	25	336	22	453	23	560	23
201	21	258	25	337	22	454	21	561	23
202	24	264	26	338	22	457	21	562	23
203	24	265	25	340	22	458	22	565	21
205	23	268	24	342	23	461	21	566	21
206	20	272	26	343	22	467	21	567	22
208	24	279	24	345	21	471	20	569	22
209	20	288	25	346	22	472	20	570	22
210	21	290	25	347	23	478	23	573	23
211	21	292	24	350	23	479	23	574	23
212	21	293	23	351	23	481	23	575	22
213	21	294	22	352	23	483	23	579	27
214	20	295	22	353	23	488	22	580	27
215	21	296	21	354	22	489	21		

報　告　書　抄　録

ふりがな	ひえ 75
書　　名	比恵 75
副 書 名	比恵遺跡群第135次調査報告
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	2197
編著者名	杉山富雄
編集機関	福岡市教育委員会
所　在　地	〒810-8621 福岡県福岡市中央区天神一丁目8番1号　　TEL 092-711-4667
発行年月日	2016年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
比恵(ひえ)遺跡群 (第135次)	福岡県福岡市(ふくおかけんふくおかし) 博多区博多駅南３丁目(はかたくはかたえきみなみさんちょうめ)	40130	309	33°34′58″	130°25′39″	20141014 ～ 20141128	404	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
比恵遺跡群	集落 散布地	弥生時代	杭列 1	弥生土器・木器・石器	

要　約

調査地は、比恵遺跡の立地する中位段丘を浸食する浅い谷の奥部に東岸に位置する。調査区の大部分は谷にかかり、谷底に堆積した泥炭質の粘土層から、弥生時代前期から中期前半にかけての土器、木器類、石器類が出土した。隣接する80次調査区同様、土器は細片化しており、24次・25次調査区ほかで調査したような谷奥から西岸を中心とした遺物包含層の周縁部に当たるものか。

遺構は、谷底で四隅に細い杭を打ち込んだものを検出した。台地部は削平を受けており、小穴が僅かに遺存するのみである。

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第1297集

比　恵　75

― 比恵遺跡群第135次調査報告 ―

2016（平成28）年3月25日発行

発　行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8番1号

印　刷　松影堂印刷株式会社
福岡市博多区吉塚5丁目13番40号